

道 徒 の 聖

第一九五八年三月十七日第三種郵便物認可（毎月一回一日発行）
第三巻 第三号 一九五九年三月一日発行



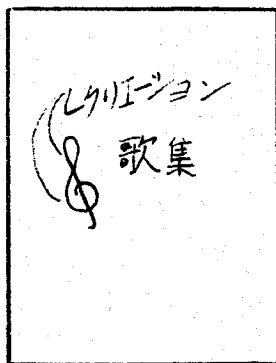
1959

3月号

末日聖徒イエス・キリスト教会

義しき者の歌はわれに対する祈りなり-----。

汝ら最も善き書より智慧ある言葉を探し求めよ-----。

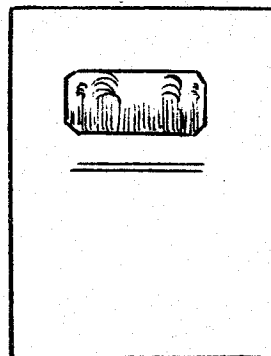


レクリエーション
歌集

400円

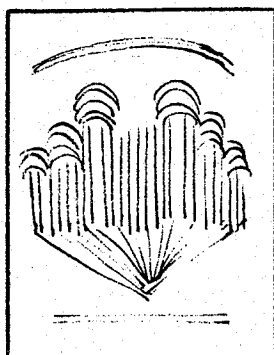
末日聖徒讃
美歌

300円



末日聖徒讃
美歌
シオン讃美
歌拔萃

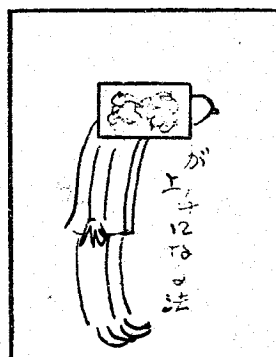
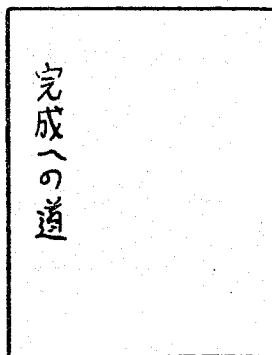
30円



完成への道

完成への道

200円

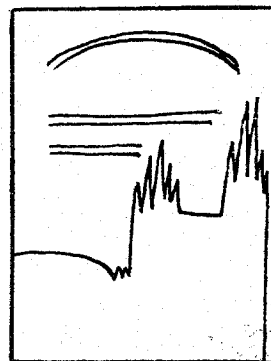


演説が上手に
なる法

150円

モルモンと
は？

100円



彼はここにいまさず よみがえりたまえり

デビド・O・マツケイ

人間は自己が不滅であることを忘れて始めに星のきらめく天を驚ろきの眼を以て眺め、或いは自己の存在といふことの神秘を解くために空しい努力をしたから、聡明な人々でも一人のこらず「人もし死なばまた生きんや」(ヨブ記十四章十四節)とヨブが発した昔ながらの疑問を心に抱いている。

それは昔からの疑問であるので、永遠から発するきらめきのように、神の御言葉があらゆる時代に人間は不滅であるという確かな答えを伝えても、無教の人々は何世紀の間終始その光明を真正確実なものとして受入れることなく、従つて各自に割当てられた時を疑いのうちに過しておそろしい暗黒のうちに死んで行つた。それは彼らが今まで誰一人墓の向うの国から帰つてきた者はないと推論したからである。

従つて、全人類史上最も重要な出来事とは、あの記念すべき一週のはじめの日に、天使の答へと共に、空になつてゐる墓を発見したことであつた。

「汝らは十字架につけられたまいしナザレのイエスを尋ねれど、すでによみがえりて、ここにいまさず。みよ、納めしところはここなり」(マルコ伝十六章六節)

以上の聖句は、それが書かれた時に復活祭と何の関係もなかつた。この聖句は単にイエス・キリストの復活すなわち人類史上最大の出来事の一つに就いて述べているだけであつた。

春の祭りである復活祭は、シリヤのアシタロテに相当するサキソンの春の女神イオストロを祭る異教の祭りを採り入れたものであつた。

大管長メッセージ



人々が復活祭の季節を新しい生命と新しい希望の季節というのはすべて、このキリスト教以前に行われた古代の祭りを適切に暗示しているのかも知れない。なるほど春と復活とは旨く連合しているが、それは自然の中に復活と正確に似ているものがあるというのではなくて、眠りから目覚めるという思想を暗示する春がそれだけ自然の中にあるからである。死の沈黙のように、冬將軍はあらゆる植物の生命をいままでしつかりつかんでいたが、春が近づくに従ってあの柔らかな生命を与える力と熱と光とが、冬將軍の固く握っていた手をやむを得ずゆるめさせるので、いままで死んでいたと思えるものがだんだん新しい生命に目覚めてくる。

復活は象徴でなくて真実である

しかし、肉体の生命が再び目覚めること、または崇高な理想の回復ということすら初期のキリスト教徒が祝った復活祭の本当の意味ではない。初期のキリスト教徒は、十字架にかかりたもうた彼らの主が墓から出て来たもうたこと、すなわち復活のキリストを祝いたてまつったのであつた。キリストが救い主であると信ずるすべての者にとつて、キリストの復活は象徴でなくて真実である。キリストが墓から出て来たもうたことを、キリストの弟子たちが事実として信じたのは確かである。彼らは、その目で見その耳で聞きその手でキリストが肉体を有つて目の前に居りたもうことを触れたのであるから、彼らは真実復活したもうたことを知っていた。復活したもうた主が弟子たちと話をして彼らの間を歩き（六頁に続く）



一九五八年一年間の

教会の足跡を振返って

ポール・O・アンドラス

先月私のメッセーシの中で強調しましたように、千九百五十八年はこれを前年に比べると北部極東伝道部にある教会のために良い年でありました。しかし、これを教会が北部極東伝道部で為し遂げていなくてはならぬことに比べると千九百五十八年はあまり良くありませんでした。とにかく次にいくつかの統計があります。

千九百五十八年中に新しい最高記録として合計七百六十名がバプテスマを受けました。この合計の中で七百十九人の改宗者は宣教師からバプテスマを受け、十六人の改宗者は末日聖徒の軍人からバプテスマを受けました。また会員の子供が二十五人、八才になって千九百五十八年中にバプテスマを受けました。北部極東伝道部の得た改宗者七百三十五人中、五百十七人は日本で、百六十三人は韓国で、また五十五人は沖繩でバプテスマを受けました。北部極東伝道部の中で京城北支部が最高で七十八人の改宗者が昨年中にバプテスマを受け、次は札幌支部で六十一人の改宗者がバプテスマを受けました。第三番目は東京中央支部でその数は四十四人でありました。ここに述べた改宗者の数は頼もしいけれども、まだ北部極東伝道部

にある教会へ毎年入ってこなければならぬ改宗者の数にはるかに及びません。今年教会へ人々を導き入れるためにあなたが持っている好い機会を充分利用するよう、確かに心からやってみて下さい。今この伝道部にある一番大きな唯一つの必要は、適当な集会所であります。実際この必要は今までよりはもっと切迫して居ります、というのはこれまでに会員の数が非常にふえているのに、伝道部全体の中で教会が持っている適当な集会所はまだ一つもないからであります。特に、この切迫している必要と建築資金募集に就いてこれまで言おうとして来た強い言葉とを考え合せると、千九百五十八年にこの仕事の面が如何に貧弱にしか進まなかったかを見ると私共はひどい驚ろきを覚えて少々がっかり致します。私共の記録を見ると千九百五十八年の全体を費し、北部極東伝道部全体がかりで建築資金として合計僅か三百四十九萬三千八百四十九円を集めたことがわかります。これは必要な額よりもはるかに下であります、また当伝道部で毎年募集が可能である額よりもはるかに下廻って居ります。少くともこの額の五倍が建築資金として毎年募集することが出来る

し、また募集しなくてはなりません、あなたの援助が必要であります。今年中に募集される建築資金の額を大きくするようにあなたの受持った分をきつと果して下さい。千九百五十八年中に東京西支部東京北支部および三の宮支部で土地を買いましたから、教会は今当伝道部にある三十支部の中、二十支部に土地を所有し、その上に伝道本部の土地建物を持って居ります。来る数年間に一つのこらずの支部に新しい建物を建てるのが出来て欲しいものであります。

今北部極東伝道部には五つの地方部と三十の支部があります。その中日本には二十五の支部、韓国には三つの支部、沖繩には二つの支部があります。そして、千九百五十八年十二月三十一日現在で当伝道部に属する会員の総計は二千七百八十九人ありました。この総計の中、二千六百十二人は日本、韓国、沖繩生れの人々で、百七十七人は末日聖徒の軍人の組織に属しています。実際には約千人の教会々員が軍隊と共に当伝道部に居りますが、その中の百七十七人だけの会員カードが当伝道部へ移されてきて居るわけでありす。末日聖徒軍人の組織に属している会員を数えないと、千九百五十八年の終りには日本に二千七百七十四人、韓国に三百三十八人、沖繩にちようど百人の会員がありました。北部極東伝道部に働いている宣教師の平均数は千九百五十七年の九十八人から千九百五十八年の百五人にのぼりました。そして、その年の終りには日本に九十人、韓国に十人、沖繩に八人の宣教師が働いていました。当伝道部には四人の日本人専任宣教師が居ましたが、その中の二人は末日聖徒軍人の組織に属する教会々員からの寄附によって支えられています。

当伝道部の歴史上始めて千九百五十八年中にバプテスマを受けた男の改宗者は、三百八十八対三百四十七の割合で女の改宗者よりも多数でありました。日本、韓国、沖繩の会員二千六百十二人の中、千三百九十九人（五十四パーセント）が女で千二百十三人（四十六パーセント）が男であります。そして、日本の会員二千七百七十四人の中、千二百三十六人（五十七パーセント）が女で九百三十八人（四十三パーセント）が男であります。また沖繩でも女の会員の方が

多くて男の会員四十四人（四十四パーセント）に比べて六十六人（六十六パーセント）が女の会員であります。しかしながら、韓国では最初から女よりも多くの男が教会に入ってきています。それで、千九百五十八年の終りには九十七人（二十九パーセント）の女に比べて二百四十一人（七十一パーセント）の男がありました。しかし、千九百五十八年中に日本では改宗者の中二百八十四人（五十五パーセント）が男でありましたが、二百三十三人（四十五パーセント）だけが女でありました。韓国では改宗者の中百七人（六十六パーセント）が男で、五十六人（三十四パーセント）だけが女でありました。しかし、沖繩では女の改宗者数は男の改宗者数の二倍近くありました。すなわち三十六人（六十五パーセント）の女に対して男は十九人（三十五パーセント）であります。だんだんと、女よりも多くの男がこれから先教会へ入ってくる期待されます。

過去と比べれば、千九百五十八年は当伝道部に於ける神権者にとっても良い年でありました。千九百五十八年の終りに日本、韓国、沖繩人の神権保持者は五百七人でありました。その中長老が七十五人、祭司が百十八人、教師が九十八人そして執事が二百十六人あります。内訳を申しますと、日本に長老が六十九人、韓国に長老が六人ありますが、沖繩には今のところまだ一人も長老がありません。また日本に祭司が百二人、韓国に祭司が十五人、沖繩に祭司が一人、日本に教師が八十二人、韓国に教師が十五人、沖繩に教師が一人、日本に執事が百五十七人、韓国に執事が五十二人、そして沖繩に執事が七人ありました。千九百五十八年中に百四十一人が執事の職に、八十一人が教師の職に、五十人が祭司の職に、そして十四人が長老の職に按手聖任され、合計二百八十六人が当伝道部で昨年中に神権者として按手聖任されました。比較して申しますと、千九百五十五年には二十六人、千九百五十六年には五十七人、千九百五十七年には二百人がそれぞれ神権者として按手聖任されました。千九百五十八年中に合計四十二人に上る当伝道部所屬の会員が結婚しましたが、その中十五人が男、二十七人が女であります。昨年中

（三頁より続く） たい、また落胆しこわがり絶望している弟子たちを自信のある雄々しい性質を持ったキリストの福音を説き教える者たちに変えたもうたことは、想像でなくて経験によつて得た知識である。これらの誠実正直な神をおそれる見証者たちの証言によつて、キリストの復活を信する信仰には「びくともしない基礎」がある。

自己の証詞を最初に書き留めた者の一人は、元のユダヤ名をヨハネと言つたマルコであつた。彼はペテロが改宗させた者であつたと信する理由がある、それはペテロが愛情をこめて彼を「わが子マルコ」と言つてゐるからである。確かに彼は使徒の頭ペテロと親しい交りがあつて、ペテロからあまり年が経つていない時にイエスの死と埋葬と復活とにまつわるくわしいことをみな聞いたにちがいない。マルコ伝の筆者マルコからわれわれは全世界で最初に空になつた墓について輝かしい宣言の言葉を聞く。キリストが墓から出てきたもうたことをこのマルコが全身全霊をあげて確信してゐたことを何人も疑ふことはできない。このマルコにとつて復活は疑わしいことではなかつた、それは真実であつたので、彼にとつて主であり師である御方が人類の間に現れたもうたことは一点の疑いもなく彼の心にしつかり確立した事実であつた。

見証者の証詞を記録した今一人の者は、シリヤのアンティオケで医者をしてゐたことのある改宗者、あのやさしいルカであつた。彼の誌した記録は、彼自身の質問と研究の結果であつたので、彼の手に入つたあらゆる換り処のある事実から出ている。特にルカは「始めよりの目撃者にして御言の役者となりたる」人々に会つてその宣言を記録した。またルカは「序を正して書」くために「すべての事を最初よりつまびらかに推し尋ね」た。これはルカが又聞きではなくて始めからの目撃者から直接にその証詞を聞いたと言ふことである。

文書が証詞をする

これらの目撃者の言葉が正確であるという保証と共に、われわれは復活に関してペテロやパウロやその他の使徒たちが言つた言葉を信することが出来る。なるほど、マルコもルカも共に生きたまゐるキリストを見た証詞をしていないが、幸いにもイエスが死んで埋葬されたもうたから現れたもうたというのを目撃した者自身の証詞がつてゐる文書がある。この個人的証詞はまた前に引用した二人の人の証詞のみならず他の人々の証詞をも確証する。私が言つてゐるのはガマリエルの下で教えを受けた厳格なバリサイびとであるタルソのユダヤ人サウロのことである。サウロは改宗する前に、死人の中からよみがえつたとしてナザレのイエスを信する人々を皆にげしく迫害した。よみがえりたもうた主に関する証詞の最も古い記録を聞きたまへ。

「ケバに現われ、後に十二弟子に現われたまいし事なり。次に五百人以上の兄弟同時に現われたまゐり。その中にはすでに眠りたる者もあれど、多くは今なお世にあり。

次にヤコブに現われ、次にすべての使徒に現われ、いやはてには月足らぬ者の如きわれにも現われたまゐり。われは神の教会を迫害したれば、使徒となえらるるに足らぬ者にて使徒のうちいと小さき者なり」（コリント前書 十五章五節―九節）。

末日聖徒イエス・キリスト教会は、復活を真実であるとして受け入れてゐるばかりでなく、また地上に於けるキリストの神聖な使命の完成であるとしてこれを受け入れてゐる。またペテロ、パウロその他の使徒たちの証詞に次の偉大な確証をつけ加えてゐる。「さて、この子羊に就きて為されたる様々の証の挙句、われらの為す最後の証はすなわち「主は実に生きたもうた」ことはなり。……それ、イエスは世に來りたもうた世のために十字架につけられ、世の罪を負ひ、世を聖くし、あらゆる不義を聖めたもうた」（教義と聖約七十六章二十二節、四十一節）。

これまで絶えずくり返されてゐる「死后に生命ありや」という質問に対する否定的の答へが、疑惑のうちに人類の霊を圧迫し始めてゐる現代に於いて、われわれは「最後の証はすなわち「主は実に生きたもうた」ことはなり」という言葉に聞き入ることによつて心を喜びに目覚めさせることができる。

キリストが死んでから生きたもうたように、全人類も死んでから必ず生きて各自に最も適する場所を次の世で占めるにちがいない。

毎年くり返される復活祭の朝の一つ一つが、この真理を強く印象つけて、キリストは本當によみがえりたもうたので、キリストによつて人類の不滅は保証されるという神の確かな御言葉がわれわれの心を満すように、また力は正義なりと言う誤つた考えが、復活したもうた主の慈悲深い平和を愛する精神を八方に輝かす福音のひとときわ高い理想に取つて代られる日が間もなく世界に明け初めるように祈り奉る。

（五頁より続く） あります。昨年中に結婚した十五人の男の会員の中で十人は会員と結婚をし、五人は非教会員と結婚しました。昨年中に結婚をした二十七人の女の中で十三人は会員と結婚をし十四人は非教会員と結婚しました。

上記の統計が示すように、千九百五十八年は過去と比較して当伝道部に於ける教会のために良い年でありました。しかしながら、教会はもつと良く仕事をしていなくてはなりません。

あなた方の一人一人が現在存在している数々の好機会につり合つた結果を生ずるためにに努力をするに当り、何とぞ主が祝福したもうように祈り奉る。

我ここに在り

我を遣わしたまえ (上)



スターリング・W・シル

主宣いけるは、われ先の者を遣わ

さん。而して第二の者怒りて、その

第一の位を保たず。

アブラハム書三章二七節二八節

予言者イザヤは自分が見た天国の大会議の
示現の一部を与えている。それは救主が未だ
生れざる人類の爲に果す目的の爲に選ばれた
時であつた。彼は此の世を顧わなければなら
なかつたのであるが世は未だ創造の段階にあ
つたのである。イザヤは言つた。「われまた
主の声をきく曰く、われ誰をつかわさん。
誰か我らの爲に往くべきか? (イザヤ書六章

八節)

現代の啓示は二人の者が之に答えたことを
告げている。一人は特に此の特別の任務に資
格を持った神の独り子であつた。彼は答えて
言つた。

「われ此所に在り。われを遣わしたまえ：
父よ御旨の成らんことを、栄光とこしえに
父にあれ」(モーセの著 四章一節一二節
参照)

けれども他の者も語つた。それは暁の子、
明星ルシフェルで彼は言つた。

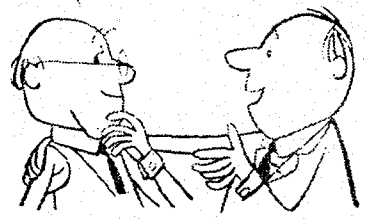
「見たまえ、われ此所に在り、われを遣わ
したまえ。われ汝の子と成らん、われこと
ごとく人類を顧いて一人だに失ふことなか
らしめん。われ正にかくの如くすべし。こ

れを以てわれに汝の誓を与えよ」(モー
セの著四章一節、教義と聖約七十六章二十六
節、イザヤ書十四章十二節一十四節参照)

主宣いけるは「われ先の者を遣わさん」と。
記録は「第二の者怒りてその第一の位を保
たず」(アブラハムの書三章二十七節一二十
八節)と記している。ルシフェルは彼自身の
利益に仕える道を得なかつたので謀叛者とな
り、それより神の仕事に對抗して戦つて来た
のであつた。ルシフェルは天より追放され、
三分の一の天の軍勢は彼と共に追放されたの
であつた。彼等はその不従順と謀叛の故を以
て彼等の第二の位となり得たであらう前進か
ら失格したのであつた。(教義と聖約 二十
九章三十六節)

この不従順による失格に向う動きは尚も続
行している。そして殆ど同一の理由に基いて
いるのである。

我々の心は或時には極めて強く近視眼的に
我々自身の個人的な利益の上に置かれる。こ
れは単に前世に於て神がその子供と持つた最
大な問題であつたばかりでなく、神が此処で
我々と持つてゐる最大なる問題である。「召
される者は多けれど選ばるる者は少し」これ
は単に我々が我々自身を失格させる結果に他
ならない。主の最大なる問題は依然として人
をして彼等の高い召しに対し資格ある者とな
さしむるにある。主は尚、正しい指導者を得
るに困難なようである。主の仕事、人類の贖
いは常に自由意志に立脚したものでなければ



私は監督が此の任命には、私はあまりに老人過ぎると思わないことを望みます。

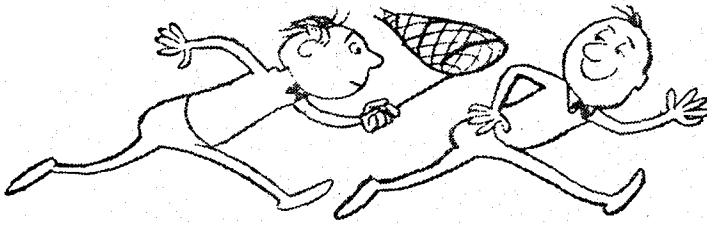
ならない。神は昔時に於けると同様、今も尚その同じ大きな質間に直面しているのである。

「われ誰をつかわさん。誰が我等の為に往くべきか？そして

大会場に於けると同様我々の回答は大きく我々自身の将来及我々の指導に従う者の将来を決定するのである。

これに就て我々はどうしたらよいのであるか。恐らく何よりも元づて我々は我々自身の中に積極的な熟意を述べさせねばならない。"われ此所に在り。われを遁わしたまえ……父よ、御旨の成らんことを、栄光とこしえに父にあれ"と言った前世のキリストの自発的な精神の模範に従って進取的な執意を育成せねばならない。この自由意志、主の召しに応ずる自発的な奉仕は、福音の精神でそれを我々の内に如何なる程度に成長させたかが、我々の祝福と我々の有用さとを共に決するのである。

主は「されば汝らもし神に仕えんと望むならば、汝ら神の業に召さるるなり」(教義と聖約四章三節)と言われた時我々に鞭を与えられた。望みは人の魂の操徒士である。若しも神に仕えんとする我等の望みが



教会の職につけられない（職がその人を捕えるのが困難）ことをよいことにしている或人が居るかも知れない。

受ける人が居る。私は曾て一人の人がステーク部の大会で次のような話をしたのを聞いた。即ち彼は前に二度或職を考慮されたがその都度前以てわかつたので家を売つてそのステーク部から出てしまつた。けれども最後に前以てわからなかつた為に遂に仕事を押しつ

強く決定的なものでなかったらより価値の少い關心が永遠への最も重要な機会を覆つてしまふかも知れない。我々はもつと進取の氣象を延ばさねばならない。我々は我々自身の自発的な、奉仕せんとする望みを増大さすべきである。主は我々が、すべての事を命ぜられる迄、手をこまねいて待つてゐることを好まれない。この事は單に主の御意志であるばかりでなく又我々の本旨でもある。

教會の職につけられない（職がその人を捕えるのが困難）ことをよいことにしている或人が居るかも知れん。又実際に教會の任命に反抗したり或は不承不承又は興味なくそれを

受ける人が居る。

けられてしまつたと、彼の言葉と態度は、神に仕えようとするものではない。貴方は主がそのような態度を感心されると思ひますか。若しも我々が真にこれが主の仕事であると思ひましたらそれに参加したいと言ふ念にかられる筈ではなからうか？此の精神はアロン神權アドヴァイザーであつた一人の年配の紳士によつて最近に示された。彼は言つた。

「私は監督が此の任命には、私はあまりに老人過ぎると思わないことを望みます。私は此の仕事を愛し私の奉仕が終らないことを望みます」

ブリガム・ヤングは曾て言われた。

「すべての男女は神より与えられた処のすべての才能を以て主の仕事を援けるよう

に期待される」

これはヤング大管長自身が彼の全生涯に熱心に実施した哲学である。何故我々が同様にせずしてよいであろうか。

我々は天国に於ける大会議で自発的に奉仕の誓約をしたのである。機会は未だに我々の前にあり我々各人は自分自身の回答を与えねばならない。(未完)

(筆者は十二使徒会補助)



極東におけるモルモン

私の改宗

鈴木 正三



「而して、この末の世にわが選びたる弟子たちの口よりすべての人々に警めの声は及まん。この末の世の弟子たちは進み行けど

一人もこれを止むる者なからん。そは主なるわれ彼らに命じたればなり。」

この聖句の如

く今この日本の地に誰に依っても阻止されることなく真理を求める人々の中に伝わり、神の王国が急速に広まりつゝある事を心から感謝して居ります。主は様々な方法を用いて各人を主の道に導かれる事を私の経験を通して

知る事が出来ました。

一九五一年春私は大学進学の資格を捨て、社会に出なければなりませんでした。丁度就職難の時期で一月から探しましたが中々見出せずに居りました。所二月末になり或る会社を紹介を受けそこに行きましたが駄目になり他の所を紹介されました。次にそこに行ったのですがそこも人が一杯で採用されず少々悲観して居りました所三月中ばになりその親会社から入社試験電報を受けて入社出来ました。

六ヶ月間私は無我無中で働きました。仕事は貿易に関係しており税関に出入して働くもので、その頃は兎に角貿易という事は時代の花形の様でした。始めての仕事であり特に

税関の官吏と接する事が多く非常に神経をつかい毎日ひどい疲労を感じました。六ヶ月経ちますと一応仕事にも慣れ自分を見回す余裕が出て参り其頃から今迄にも経験した社会の矛盾に悩むようになって参りました。会社内のお互の収入を上げんとする葛藤、しつと、又官庁内の人々の怠惰な仕事振り、貿易界の混乱に乗ずる不正、いろいろ等々社会の不潔さと人間のみにくさを仕事を通して一部ではありますが実際に見せつけられ勤労意欲は著しく減意しました。そうして毎日与えられた仕事をそれも八時頃迄して其後家に帰り疲労から寝る丈けの生活へと移って行きました。

元来私は学校の教師になるつもりで居りましたので様々な悩みに打当る度に「お父さん生きていたら……」と、大学に学ぶ学友を想っては無念やる方なく其内に同僚と夜遅く迄酒場を飲み歩く生活に移って行きました。併し心のうつろは覆い隠すことは出来ませんでした。其頃から私の課に居た一人の女性がいろいろと勵しの言葉をかけてくれ嬉しく思いました。彼女は母を失い、父が再婚しているとはいえ心に何か満たされないものを持って居りました。その二年前に私は父を失って居りましたのでその様な事からの互に良く話す様になりました。

彼女は時々自分の行っている教会について話をして呉れました。併し不幸にも私はクリスチャンは皆偽善者であり、その人

々は皆弱々しく思っていたし又友人からさんげについていろいろ聞き良い感じを持っていたませんでした。其中年もくれて私は意を決して第一日曜日から教会に行きました。当時は女学校を借りて居り二十名位が出席して居りましたがそこで私は今迄に感ずることの出来なかつた暖かい空気にふれました。特に宣教師のいんぎんな態度にひかれ家庭集会を受ける様になりました。家庭集会によって神が真に生きて居られる事、人生は試れんの時等々に私はこれらの教えに強く惹きつけられ又現在の北支部長の大塚兄弟のモルモン経のレッスンが有意義でありましたので私は一心にモルモン経典を読みました。「人権的」「貧富」の差なく救いは全人類に来る事を知り又既に死んだ父や兄の救われる事を知った時に心から喜び八月四日私を教会に導いて下さったその友達と共に本部に於て浸礼を受け会員となる事が出来ました。

以後今日迄不完全な僕でありますがこの様な僕にも神は豊かな導きと恵みをお与えになられて居る事を心から感謝して居ります。一諸に信者になった私達は翌年マース部長の祝福を受けて結婚致しました。其後様々な試れんがありましたがいづつも主の豊かな導きと兄弟姉妹の暖い愛に依って今迄生活出来た事を毎日の祈りを通して感謝して居ります。

歴史を考える時「若し」という言葉を置いて考えると色々な事が考えられます。今迄の生活の中で「若し父の死がなかったら」又私

私が一番最初の会社で首尾よく入社していたら現在の妻を知る事もなかったろうし勿論福音についても知らなかったと思います。私は自分の改宗について考える時これは神の御導による事であると心から確信して居り又心か

喜も悲しみも神と共に

一九〇一年ヒーパー・J・グランド使徒が日本に初めて伝道事業を開拓された翌年に私は誕生いたしました。



九才の頃、本

部が四谷から牛込薬王寺町に移って来て、トーマス伝道部長御夫妻が千代子さんを乳母車に乗せて毎日私の

家の前を散歩に来られ「日曜学校にいらっしやい」と導いて下さってから姉と妹四人が教会が閉鎖される前まで通っておりました。高木兄弟、長尾姉妹は私の日曜学校の先生でした。その頃は今のようには教義に関する深い理

ら深く感謝して居ります。

最後に主は真に生きて居られる事ジョセフ・スミスは神の予言者であり、この教会が真の神の教会である事を証詞致します。

(横浜支部長)

松本睦子

解を得られる文献がありませんでしたが、末日聖徒イエス・キリスト教会は予言者ジョセフ・スミスによって回復された唯一の教会であると云う証だけは持っていました。当時は宣教師も信者も少ないので個人的には大変親密になり、物の考え方や音楽、文学などいろいろと教えて頂きずいぶん楽しい月日を送ることが出来ほんとに清く美しい時代でした。飛行機が飛ぶようになって米国の鳥人スミス氏が来日し木の葉おとしや宙返りなどして日本人を羨しがらせた時代ですからずいぶん昔のことです。

アイビンス伝道部長が私がピアノが大好きだったので宣教師の夕食時間をピアノの勉強時間として下さいましたので毎日教会へ行って

いたわけです。大震災後教会は閉鎖し私は結婚して満洲へ行っていました。昭和十四年一月大連で主人が亡くなり、四人の子供を連れて日本に帰ってまいりましたが、やがて敗戦に会い混沌とした世の中で初めて人の世のあらゆるみにくい世相の中で自分自身立上った時、少女時代に育てられた神の御光に奇しくも私の心は希望と喜に満された神に祈りつつ正しく生きられるように努力し、自然に三十三番「み恵み数えあげ」の讃美歌を口ずさみながらすべてを耐えて来ました。

私は心の中で必ずこの教会が日本に伝道されると固く信じておりました。文通のすべもなくさがし求めておりましたとき、道で兄玉姉妹と奈良兄弟のお兄さんにお会いして「教会が五反田で開かれていた」ときかされ飛立つ思いで訪問致しましたら、高木兄弟、奈良兄弟御夫妻、白石兄弟、鈴木なみ姉妹に何年ぶりかで御会いして御互に無事をよろこび合いました。本部のバプテスマ室が出来上ったので昭和二十三年十一月六日アンドラス長老（現伝道部長）からバプテスマをうけ、赤木長老の按手礼でここにはじめて末日聖徒として誕生する幸を得たのであります。それからずっと本部で働く機会に恵まれ、十一年の長い月日を無事に経過出来たのも一重に神の導きと御守によるものと思ひ、また奈良兄弟御夫妻、高木兄弟、相良姉妹をはじめ皆様の愛らぬ厚情と御心ずかいによって末子の隆子も高等学校を卒業し、三人の子供も信者となり、

平安に過すことの出来たことを心から感謝致しております。

子供の頃習ったピアノが今教会に於て神を讃美することに役立っておりますことは私にとって最大の喜びで、生きているかぎり神を讃美するこの仕事を続けてゆき度いと願ひたしております。

このように半生を書きつづけております時

教会と共に歩んでまいりましたことを不思議に思い常に神の豊かな恵みと大いなるみ業に感謝致しております。たしかに神は生き給ひ又自らを神の僕と自覚することによって神のみ業を少しでもわが行いの上に現わすことによつて一歩一歩進歩し、終りの日には完全な神に近付くことが出来るよう努力いたし度いと念願いたしております。（東京西支部）

J・ルーベン・クラーク・ジュニア

副管長は一九三三年四月六日より教会の大管長会の会員となつた。彼は一九三四年十月十一日使徒に聖任された。クラーク副管長は彼の生涯を通じて教会活動に活動であると同時に彼は又法律家政治家及び教育家として著名である。

クラーク副管長はユタ州グランドツウィルで一八七一年九月一日、ジョシユア・ルーベン・クラークとメリー・L・ウーレイとの間に生れた。一八九八年、法学士となつてユタ大学を卒業する時彼は生徒総代となつた。

説 明 の 紙 表

第二副管長

J・ルーベン

クラーク・ジュニア

大時彼は駐メキシコのアメリカ合衆国大使であつた。彼は第一及び第二副管長としてグラント大管長に、第一副管長としてジョージ・アルバート・スミス大管長に、そして現在第二副管長としてデビッド・O・マツケイ大管長に仕えている。

一九三四年に彼はユタ大学より又一九三二年にブリガム・ヤング大学より法学博士の名譽称号を受けた。彼は法学並に神学に関する多くの著書を持つてゐる。

クラーク副管長は彼の三人の娘がその家族と共に彼と同一の区内に又ブリガム・ヤング大学の教授をしてゐる息子があまう遠くない処に住んでゐることを特に幸福に思つてゐる。クラーク副管長の妻ルシン・サウエージ・クラークは一九四四年に死んだ。グラントツウィルの子供時代の家は常に彼の心に親しいものであつた。彼は土曜日の午後に其処へ行くのを常とする。彼の性格はその業績の広範な分野に於ける非凡な才能を伴つた、目的に對し、尋常ならざる堅固さを持つる記念碑として立つてゐる。

子供は罪をもって生れるか

Your Question

Answered by
Joseph Fielding Smith
President of the Council of the Twelve

「質問」

子供は罪をもって生れるか。これは他の宗派の人たちと話し合った時に出た問題である。その人は子供は罪をもって生れると云った。また律法に適った結婚によつて子供を生むことさえも罪であると云った。勿論私は異った教義を教えられていたので、アダムとイヴの犯した罪について彼に話し、次のように云った。「私に与えられた知識によると、聖書の中に、律法に適った結婚によつて生れる子供は罪の中に生れるなどと書かれていないと思う」と。すると、この人は詩篇第五十一篇の五節を引用した。「視よわれ邪曲の中にうまれ罪にありてわが母われをはらみたりき」この言葉の意味をどのようにに説明すべきであるか。

「解答」

ダビデが何と語ったとしても、彼は罪をもって生れたのではなかった。この詩篇の最初の言葉はダビデの言葉の意味をよく説明している。

「あゝ神よねがわくはなんぢの仁慈によりて我をあわれみ、なんぢのあわれみのおきによりてわがもろもろのとがをけしたまえ、わが不義をことごとくあらいさり我をわが罪よりきよめたまえ、われはわがとがををしる、わが罪はつねにわが前にあり、我はなんぢにむかいて独なんぢに罪をおかしみまえにあしきことを行えり、されば汝ものうときは義しとせられ、なんぢさばくときは咎めなしとせられ給う」(詩篇 五十一篇 一節—四節)

ダビデは道徳的な律法を犯したため悲しみの中に自分の罪に苦しめられ、このように云ったのであるが、この言葉は決して彼の両親が罪を犯したため、ダビデ自身が生れる時その罪を受けたという事ではない。またダビデは自分のため、自分自身に対してのみこの言葉を語っているであつて、この彼の言葉は広くすべてに適用されるものでないという事を知らなければならぬ。律法にしたがつて夫婦が結婚する時、この二人の子供は罪の中に於て生れた子供ではない。アダムに与えられた最初の試命は「生めよ、殖えよ、地に充てよ」であつた。洪水後も、この試命は繰り

返してノア及びその子孫に伝えられたのである。律法に通った結婚によって生れる子供が罪をもつてこの世に来るといふ言葉は、われわれの永遠の父なる神に「罪を犯せ」と命令させている事になる。われわれは永遠の父が正義の御方であり、偽わりを語らず、且つその御言葉は誠実で、真実なる事を知っている。故に子供を生むことが罪であるなどという考えは天父のお考えに反する事である。

子供がアダムとイヴ（始祖）の犯した罪より清められなければならないという、この世にはびこっている教義は誤りである。このよきな教義を教える人たちはイエス・キリストの贖いの性質をはっきり理解していない人たちである。アダムとイヴは禁断の実を食べてこの世に死をもたしたが、これにより、われわれ人間はすべて死ななくてはならなくなつた。人の生命を回復すること、すなわち、霊と肉体とを再び結合させて、アダムの罪を贖うのはイエス・キリストの使命であつた。イエスはこの世に來りたもうて、十字架上の犠牲により、すべての人を死より贖いたまい、復活の賜を与えたもうたのである。アダムの子孫は決して始祖の罪を受ける事はないし、またこのような罪から自らを清める如何なる行為も必要としない。

主は幼い子供たちはみな如何なる罪の罰をも受けないとはっきり仰せになつた。たとえ親が罪を犯しても、それは子供に何ら罪を残さない。人がその自らの罪によって罰せられ

るといふ事、すなわち、他の人（親をも含む）の罪によって罰せられるのではないといふ事は永遠の律法である。幼い子供たちが祝福を授けられるために主イエスの御前に連れてこられた時、弟子たちは子供たちを追いはらおうとしたが、主は弟子たちをおしかりになつて、次のように云われたのである。

「幼児らを許せ、我に來るを止むな、天国は斯のごとき者の国なり」（マタイ伝十九章十四節）

また次のようにも仰せになつた。

「まことに汝らに告ぐ、もし汝らひるがえりて幼児の如くならずば、天国に入るを得じ。されば誰にても此の幼児のごとく己を卑うする者は、これ天国にて大なる者なり。また我が名のために、斯のごとき一人の幼児を受くる者は、我を受くるなり。然れど我を信ずる此の小さき者の一人をつまづかする者は、寧ろ大なるひきうすをくびに懸けられ、海の深处に沈められんかた益なり。」

（マタイ伝十八章三節―六節）

このマタイ伝からの聖句は、幼い子供たちが如何なる罪をも受けていないといふ事を示している。主はこのことを一八三三年五月六日、オハイオ州、カートランドに於て与えたもうた教会に対する啓示の中で明らかにされている。

「人のあらゆる靈は、大初に罪なきものなりき。而して神は墮落より人を贖いたもうたるにより、人はみな再び幼児の有様とな

り、神の前に罪なしとなりぬ。」（教義と聖約九十三章三十八節）

主は次のようにも云われている。

「幼児は悔改めをすることができない。それであるから、神の純粹な恵みを幼児が受けないと信ずることは恐ろしい愚事である。幼児はみな神の深い憐みによって救われている。そして、幼児はバプテスマを受けなくてはならぬと言ふ者はキリストの憐みを拒み、キリストの身代りの贖罪と救いの効果とを否定する者である。従つて、このよきな人々は死と地獄と永遠の責苦とを受けようとしてゐるから禍である。これは神が私に言えと仰せになつたから恐れずに勇しく言うのである。お前は注意してこの言葉に聞き従え。そうしなければお前がキリストの法廷に立つときにこの言葉はお前を責める証詞となる。」（モロナイ書第八章十九節―二十一節）

「されど見よ、われ汝らに告ぐ。かの幼き小児らは、わが生みたる独子によりて世の始めより贖わるるなり。それ故に、幼き小児らは罪を犯すこと能わず。サタンは、幼き小児ら成長してわが前に責任を知り始むる年までこれを試むる能力なければなり。」（教義と聖約二十九章四十六節―四十七節）

信 仰

と

証

詞

桃 太 郎 に 想 う

西 島 吉 春

私達はモルモン教徒として、神の道に就く者に対する誹謗や誘惑は、かなり強いものであつて、相当信仰の深い者にとつても油断の出来ないものである。既にバプテスマを受け、会員となつた兄弟姉妹の中にも教会に出席することを止め、聖書の研究を怠たり、知恵の言葉に耳をかさず、神の目から見て憎むべき生活に墮落している。……という悲しい事実がこのことを証拠付けている。このことは神やキリストも悲しむであらうし、私達お互愛し合う兄弟姉妹にとつても、大きな悲しみである。

このことを心に病みながら、私は桃太郎のおとぎ話を思い出した。

私達が日常生活を営んで行く上には、大なる神の導きと、恵みとがあるが、それにも増してサタンの強力な誘惑がある。それは私達の心に隙間風のように入り込む。ある時は、友達のを借りてモルモン

ン教徒の信条を誹謗し又先生や上司の口を借りる時には、私達を軽蔑し迫害し、両親の口を通ずる時には、行動や信仰を封じる等によつて……このようにサタンは、おとぎ話の鬼のように善良なる人（モルモン）を困らせ、悩ませ道を誤まらせようとするのである。これに敢然と立ち向うのが桃太郎、即ち私達信徒である。ではこの桃太郎を鬼が島に outward させたものは何か、いうまでもなく彼は自ら望んで行つたのであつて他人に頼まれ行つたのではない。同様に私達がサタンに對決するのも自由意志によるのであつて強制されるのではないのである。彼の腰につけたキビダングは信仰と祈りであり、お伴につく犬、猿、きじは謙遜な祈りと堅い信仰によつてのみ得られる神の庇護である。そして最後に獲得する宝物は、日の栄光である。もし彼桃太郎がキビダングを惜んで与えなかったらどうであつたらうか？一匹の伴も得られなかったに違いない。そしてその結果は彼が如何

に強くとも鬼退治は出来ず、宝物を得る事が出来ないのみか、逆に鬼の手下となつたであらう。同様に私達が信仰を捨て祈ることをやめ、隣人を愛する事を惜んだら神の恵みと庇護は断たれ、サタンと戦つても簡単に敗れて、日の栄光に入ること能わず、永遠の闇の中をほうこうし火の焔に焼かれる事になるであらう事は容易に想像されるところである。もう一度繰り返さず、桃太郎はその自由意志によつて鬼ヶ島に向つたからこそ犬、さる、きじに出合つたのであり、キビダングを惜まずに与えたからこそ、彼の家来となつたのであつてそれらの家来の協力があつたが故に鬼に勝つことが出来、宝を得ることが出来たのである。このことから私は次の事を決意した。サタンをおそれず敢然と立ち向おう、そして常に祈りを捧げ、愛を惜まず与えることによつて神の庇護を受け、究極の目的、日の栄光を得よう……

(札幌支部)

原稿募集

- 一、支部の動勢 (四百字詰三枚位)
- 一、信仰と証詞 (四百字詰三枚位)
- 一、写真 (支部の集会等)
- 一、詩、短歌、俳句 (題随意)
- 一、メロ (毎月末まで)
- 一、宛先 (伝道本部編集部)

若き末日聖徒の爲の モルモン経物語

エマ・マー・ピーターソン著*渡部正雄訳

才五十二章

アルマは 祈りを教える

(アルマ書第三十四章)

アルマは偉大な説教者でありました。彼は眞の予言者でモーセやエライジヤやその他の神に召された人々と同様に主なる神さまに靈感されて居りました。

彼の最も大いなる教えの一つはお祈りでありました。彼は民に彼等がなすすべての事に就て主なる神さまが彼等を導きその働らきを榮えさせ彼等の信仰を増させるように援けて下さる様に祈りなさいと教えました。即ち

「神は人を救う大能を具えたも
うから、神に憐みを求めよ。へ
りくたつてたえず神に祈れ。牧
場に居る時は、あなたたちの家
畜の群について神に祈れ。家に
居る時はあなたたちの家族全体
について朝も昼も晩も神に祈れ。
あなたたちの敵の力を防ぐこと
ができるように神に祈れ。一切
の義しいことに敵対する悪魔を
防ぐことができるように神に祈

れ。あなたたちの田畑の収穫が
豊であるよう、その作物につい
て神に祈れ。牧場にあるあなた
たちの家畜がふえるように神に
祈れ。こればかりではない、あ
なたたちが一人で部屋に居ると
きも、秘密の所に居るときも、
また野に居るときも心にあるこ
とをうち明けて祈れ。声をあげ
て主に祈らない時でも、自分の
為また自分のまわりの人々の為
を思つてたえず心の中で主に祈
れ。」

アルマ自身も祈りと断食の力を
知つて居りました。

主なる神さまは彼の祈りとその
義しい生活の故に彼に多くの啓示
を与え又天使を遣わして彼の仕事
を援けました。

けれどもアルマは又他人に対し
て親切でなければならぬと教え
ました。彼は民に、只祈りと信仰
だけでは不十分であると告げまし
た。我々はその祈りと信仰を以て
働かなければならない。我々は福
音に生きてすべての人に対し親切
でなければならぬ。彼はその民
に彼等の祝福の爲に祈ることを教
えた後

「私の愛する同胞よ。これで満
足と思つてはいけません。たと
えこれらのことをみな行つても
もしも貧しい者や暮る物のない
者の願いをことわり、病んでい
る者、あるいは悩んでいる者
を見舞わず、持物があつながらそ
の幾分を貧しい者に施さないな
らば、あなたたちの祈りは空し
くなつてその効果はなく、また
あなたたちは神の言葉を否定す
る偽善者のようになるであらう。
それであるから、もし忘れずに
慈善を行わないならば、あなた
たちは金銀を精製する人たちに
(価がないから)棄てられて、
人の足でふまれる鉄かすのよう
な者である。」と告げました。

才五十三章

アルマと

その息子達

(アルマ書第三十六章―第四十
二章)

アルマは或忠実な兄弟達と二人
の彼の息子を迎れてゾーラム人の
間に伝道を始めました。
ゾーラム人は眞の福音を抱んで
彼等自身の救済を望んでた民で

した。彼等は美しい衣服を着多く
の飾りを身にまとい居りました。
彼等の牧師は国の中で富める者達
でその民から財物を取って居りま
した。そして貧しい人々は抑えつ
けられて居りました。

アルマとその兄弟達はこの民の
内或者を改宗させましたが大部分
の者が彼等の云うことを信じませ
んでしたので宣教師達は他の地で
伝道するため其処を立去りました。
ゾーラム人の指導者達は民の内
で誰がアルマの教えを受入れたか
探し求めてその信する者達を国外
に追出してしまいました。

家を追出された人々は荒野を旅
して遂にアンモンの民の住んでい
るシエルシヨンの町にたどり着き
ました。そこで彼等は親切に迎え
られ衣食を供せられました。

ゾーラム人はこの事を聞いて大
変怒りニーフアイ人とアンモンの
民が彼等が追出した人々に親切に
したという理由で攻めて来ようと
しました。

アルマは此の事を聞いてこの新
しい戦いに備える為に手伝いまし
た。けれどもその前に彼は二人の
息子にその事を話しました。彼は
その後何時迄生きながらえられる

かわからず息子たちに将来の為に
準備するように望んだからであり
ます。

彼は息子を一人つつ呼び先ず素
晴らしい若者ヒラマンに語りまし
た。彼はヒラマンに聖なる記録を
与え続けてその上に記録するように
に告げました。アルマはヒラマン
が主なる神さまに忠実であること
を知っていましたが尚彼の証詞を
ヒラマンに立てたいと望んだので
ありました。

彼は主なる神さまの使いが彼と
モーサヤの息子達の縁えの道を止
めた時の彼自身の改宗に就て語り
又イエスは世の救主キリストとし
て来るであろうことを教えました。
彼はヒラマンに丁度アルマが教え
たと同じように福音を説き又祈り
の内に主なる神さまに近づき主な
る神さまの側近く生活するように
頼みました。そして彼は言いまし
た。

「わが子よ、忘れずに青年の時
智慧を得よ。青年の時から神の
命令を守ることを習慣とせよ。
汝の要する一切の助けを神に祈
り求めよ。何事でもすべて主の
ために為せ。どこへ行くにも主
のために行け。常に主を念頭に

置いて心の愛情をとこしえに主
へ向けよ。」と。

又その他のアルマの美しい言葉
は

「汝のする一切の働きについて
主のみこころを伺え。そうすれ
ば主は汝の為になる善い誠めを
与えたもう。眠っている間も主
が見守りたもうよう夜寝る時に
は自分の身を主に任せて寝よ。
そして朝起きる時には神に感謝
する念を胸に満せ。このように
すれば終りの日に高く挙げられ
る。」と。

アルマはヒラマンに記録の版に
つけ加えて主なる神さまがリーハ
イに与えた処の球又は道しるべを
与えました。彼等はそれをリアホ
ナと呼んで居りましたがそれは羅
針盤と云う意味であります。それ
を与えながら彼は言いました。

「我等の先祖がこの道しるべに
従って約束の地へ行、たように、
私たちが若しもキリストの御言
葉が示す道を歩いて行くならば
確にその御言葉によってうき世
を越えてはるかに善い約束の世
に行くことが出来る」と。

彼は息子達に別れを告げて「で
は我が子よ、この一切の神聖なも

のを保護するように心がけなさい。
神に頼って永遠の生命を受けな
さい。この民に神の道を宣べ伝え
なさい。真面目で一生涯懸命にな
りなさい。ではさようなら、我子よ」
と云いました。

次に彼はその息子シブロンを呼
んで忠実であるように又よく自制
しておだやかに決して怒らないよ
うに忠告しました。

それから彼は悪い青年であつた
彼の罪深い息子コリアントンを呼
びました。コリアントンは多くの
悪い行いをしその道徳さえ失って
居りました。アルマは彼に悔い改
めをうながし性に関する罪は殺人
罪と聖霊に逆う罪を除いて他の如
何なる罪よりも悪いと告げました。
彼は更に言葉を続けて

「あゝ、わが子よ、お前はあの
ような大きな罪を犯さなければ
よかつたものを。私がこのよう
にお前の罪を述べ立ててお前の
心を責めるのはお前のためであ
る。そうでなければこれと言う
いわれがない。ごらん、お前は
自分の罪を神に隠すことができ
ないから、悔い改めなければそ
の罪は終りの日にお前を責める
証詞となる。」と云いました。

彼はコリアントンによく兄さん達の忠告を聞いて再び仲間に誘惑されないように告げました。

そこでアルマは彼の息子に世の救主として来るであろうイエスに就て教えました。彼は息子に主なる神さまの大なる贖救に就て語り我々はただ此の世だけでなく我々の肉体が死んでも生きて行くであろうことを説明しました。又死んだ者の内で義人の靈魂は死後の世界である樂園に行きそこは幸福と平和と喜びに充ち溢れ彼等は復活の日迄そこに留るであろう。けれども悪人の靈魂は霊のひとた行きそこで彼等はその罪の罰を受けるであろう。そして復活の時義人は神の面前に伴われるけれども悪人は清くないから取除かれるであろうと教えました。

彼はコリアントンにこの生涯は主なる神さまが我々にその弱点を克服して神に忠実に、その誠命を守って清く強くなるように期待して居られる時であり、若し我々が義しく生活するならば悪人にもたらされるであろう刑罰から逃れる事が出来ると告げました。彼は若し我々が此の生涯に於て罪を犯すとも心から悔い改めて二度とその

ような罪を犯さず誠命を守るなら主なる神さまは我々を許してその天国に我々を受入れるであろうと説明しました。彼はその別れを告げる時、息子に民に福音を説くため宣教師になれるよう用意するよう頼みました。

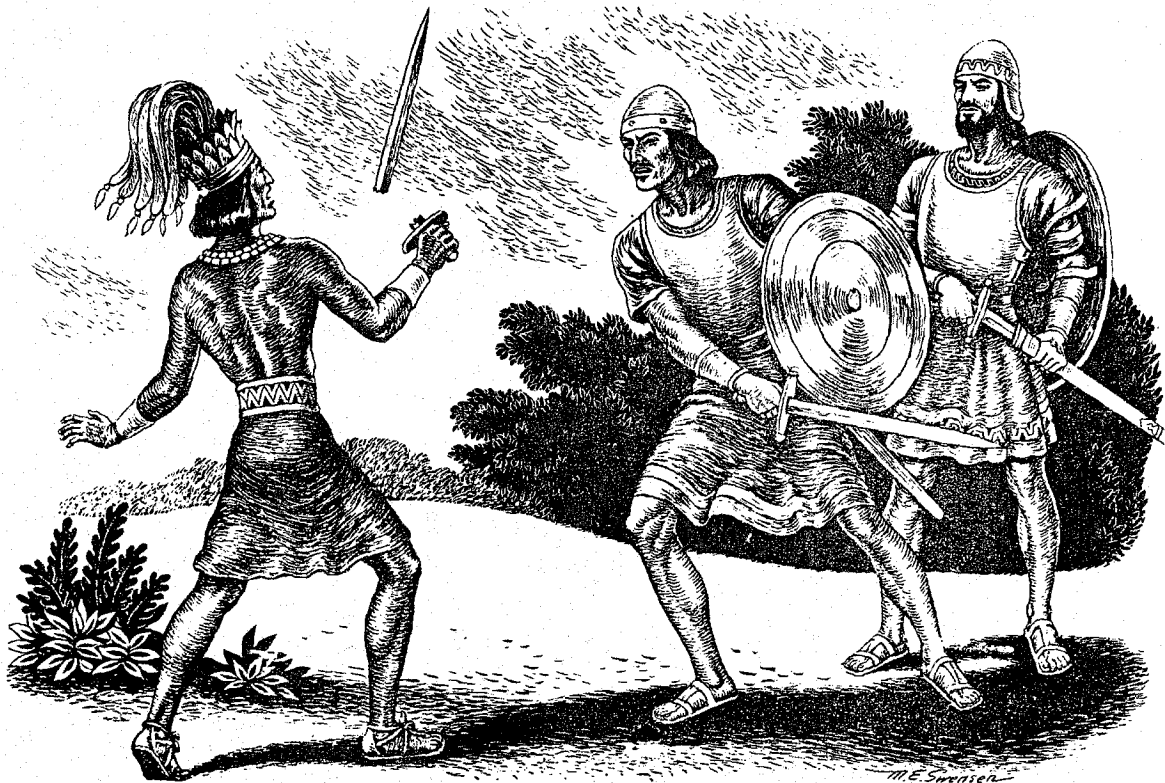
才五十四章

ゾーラム人の戦争

(アルマ書第四十三章及第四十四章)

ゾーラム人はニーファイ人に対して戦いを始めようとした。彼等がアルマ及びその仲間の宣教師によって改宗された人々をその町から追出した時、彼等はその改宗者達が荒野でのたれ死にするように望みました。けれども改宗者達はアンモンの民がニーファイ人に混じって住んでいるジェルシヨンの地に行きました。そこで彼等は親切に扱われました。そしてこの事がゾーラム人をしてニーファイ人に戦いを挑む原因となりました。

ゾーラム人は正義を憎みました。彼等は神を憎み又ニーファイ人が福音をゾーラム人の間に教えた為ニーファイ人をも憎みました。



ゾーラム人の戦争

ゾーラム人の教会はその牧師の偽教義に対しよい報酬を与えました。

ニーファイ人の祭司や教師達は自分の生活の為に働らきゾーラム人に神の真の僕はその通りすべきであると教えました。この事はゾーラム人の牧師等を怒らせ彼等はその巧妙なやり方が危くなつたと云つて民を煽動してニーファイ人に反抗させました。

ゾーラム人は自分等の軍勢だけでは足りないと感じ、レーマン人に彼等の軍に合併してニーファイ人と戦うよう援助を乞いました。レーマン人はこれに同意して彼等は共同して戦争の準備をしました。

ニーファイ人の司令官はモロナイと云う義人でありました。これはジョセフ・スミスに金版を渡したモロナイではなくモルモンの子よりも約五百年以前に住んだ人でありました。

レーマン人とゾーラム人との連合軍はモロナイの軍勢の二倍もありましたのでモロナイは或新しい戦術を以て彼等を守らねばならぬ事を知つて居りました。

当時の兵士達は弓矢、けん、やりを使用して居りました。彼等は如何なるよろいかぶとも身につけ

て居らず手に持った武器でその身を守りました。

モロナイは彼の兵士達によろいかぶとをつけさせるように決心しました。彼は胸当を造つて彼等の体を保護し又彼等の腕が容易に傷つけられないように腕当てを着けさせました。彼は又重いかぶとを着てその頭にかぶらせ、その身を守らす為重い衣をまといせました。

彼は又ニーファイ市の周囲に溝を掘りました。そして更に提防をめぐらせて味方の戦闘員が遠くから投石器を以て戦えるように保護しました。

モルモンはニーファイ全軍の司令長官になつた時年わずかに二十五才でありましたがニーファイ人が喜んで従う程戦術にたけて居りました。

ゾーラム人とレーマン人の連合軍司令官はセラヘムナと云う人でありました。彼はニーファイ軍に向つて進軍しましたがニーファイ軍が如何によく武装されているかを見た時、自分の兵は単に腰に皮をまといっているだけなので大変恐れしました。そこで彼はその軍勢を荒野に呼喚し他のニーファイの町

はモロナイも武装させていないだろうと思つて他の町を攻める計画をしました。

モロナイは探偵を派遣して敵の行動をさぐらせました。彼は又予言者アルマの処に行つて彼等がレーマン人を追うて攻めるべきか聞きました。

主なる神さまはアルマを通じてレーマン人がマンタイ市に向つて進んでいることをモロナイに告げました。彼は又ニーファイ人はたとえ血を流すようなことがあるうともその身を守るべきであると云いました。

モロナイはセラヘムナ市を守る為一部の軍勢を残して他の者を全部連れて急いでマンタイ市に行きました。彼はその町に住む人々にレーマン人が彼等を攻めて来るから戦争の準備をするように云いました。マンタイ市の民は準備をしました。そこでモロナイは彼の兵を連れてサイドン河辺の谷間にかくれました。彼はあたり一帯に探偵を置いてレーマン人が町に近付いたら報告させるようにしました。探偵は戻つて来て敵が谷間に向つて進軍している事を報告しました。モロナイは側面攻撃が出来る

ように彼の軍隊を分割しました。

レーマン人が谷間に進軍して来た時、リーハイの指揮下にある約半数のニーファイ軍はレーマン人の後方に進出して背面から攻撃しました。レーマン人が彼等と戦おうと思つて向きを変えた時他の半数のモロナイ軍がかくれた処から出て来て逆の方向から攻撃しました。

ニーファイ人達はその身にまつた武器によつて守られたけれども数千のレーマン人は殺されました。彼等は敗北したのを見て退却しましたがニーファイ人は追跡しました。

レーマン人達は滅亡するかも知れないと思つて死にものぐるいになつて戦つて来ましたが、その物すごい勢にのまれて多くのニーファイの兵士どもは驚き恐れて戦線から逃走しようとした。これを見たモロナイは彼等の間に来て若し彼等やその家族が捕虜となつたら皆レーマン人の奴隷となるのだと告げました。

ニーファイ人達は彼等の望み通りに主なる神さまを礼拝出来る自由な身に留る事が出来るように神の助けを祈り始めました。

主なる神さまは彼等の祈りを聞いてその軍勢を強くしました。彼等はレーマン人達を谷間の一隅に追いつめて完全に包囲しました。レーマン人達はわなにかゝった事を知って大変恐れしました。

彼等の戦闘をながめたモロナイは彼の兵士に戦いを中止するように命じました。そして彼は敵將ゼラヘムナに降服を勧告しました。彼は口を開いて

「お前等は我々が血を流す事を望んでいないことを知っている。又お前等は我等の手の内にあるのを知っている。けれども我々はお前等を殺したくないのだ。我々はその力によって只お前等の血を流す為に戦場に來たのではない。又我々は如何なる人とも束縛の身となる事を望んでいない。しかしながら我々の宣教の為に前等が怒って我々に反抗して來たから此のような結果となったのである」と云いました。

彼はゼラヘムナにニーフアイ人達がその日にかくも強く戦えたのは主なる神さまの祝福によるのだと告げました。彼は更に

「我はお前の命乞いによりお前の武器を我々に手渡すように命ずる。そうすれば我々は「お前等の血を流さないであらう。そして前等が自分の家に戻り再び我等を攻撃して來ないなら命を助けてやろう。今お前等がその通りしないなら見よお前等は我等の手の内にあり我は我が兵に命じてお前等が絶滅する迄その身に致命傷を負わせてしまふであらう。そうすればその時我等は誰がこの民を治める権力を持ち誰が奴隷とせられるかを知る事が出来るであらう」と云いました。

これを聞いたからゼラヘムナは前進して來てそのつるぎや弓矢をモロナイに与えました。彼はモロナイに彼及びその兵士達は武器を手渡すから家に帰らせてもらいたいと言いました。けれども彼等は自分達及びその子孫が誓約を破るであらうことを知っていたので戦争を中止すると云う約束はしませんでした。

彼はモロナイに彼は神が彼等を助けたとは信じない。ニーフアイ人の武器と厚い衣が勝利をもたらしたのだと思うと言いました。

モロナイはこのようにして戦いを終らせようとは思いませんでした。彼はレーマン人に二度と戦わないと約束をさせる決心をしました。ゼラヘムナがこれを拒むとモロナイはレーマン人司令官の武器を通して「汝らがもはやわれらの手の中に落ちた以上、わが示した条件に従わなければ汝らの血を地に流してやる」と言いました。

頑愚なゼラヘムナは返されたつるぎを取ってやにわにモロナイを切りつけようとした。けれども彼がつるぎを振上げた時ニーフアイ兵の一人がその手より撃ち落しました。

彼は又ゼラヘムナの頭皮をはいで地に落しました。傷ついて血にまみれたゼラヘムナは自分の兵士の処に逃げ戻りました。

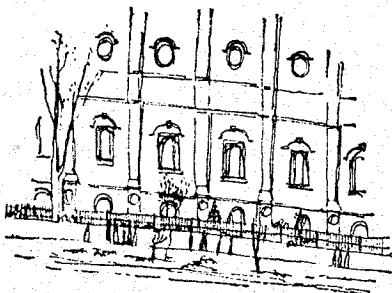
ニーフアイの兵士はゼラヘムナの頭皮を取上げつるぎの先に刺して高く頭上に掲げて叫びました。

「汝ら武器を引きわたし平和の誓約を結んでその国に帰らなければ、汝らの司令長官のこの頭の皮のように汝らも皆地にうち倒されるぞ」と言いました。

レーマン人の多くの兵士等がこれを聞いて進んで來てモロナイの

足許に彼等の武器を置きました。これを見たゼラヘムナは大変怒り残りの部下に攻撃を命じました。戦いが始まった時ゼラヘムナが全軍滅亡するのではないかと恐れる程多くのレーマン人が殺されました。彼はモロナイに若し残りの者の命を許してくれらるなら彼等はその武器を残らず手渡して二度と戦わないであらうと呼びかけました。

モロナイは彼の兵士に中止を命じました。レーマン人は残らず來て武器を渡し一人一人モロナイと再びニーフアイ人と戦わないと云う誓約をしました。そして彼等は荒野に行きました。



系図のページ

此の仕事を続行しよう

功 刀 えい子

伝道の書の中に次の聖句を読む事が出来ます。

「自分の手で出来る事は全て力をつくしてなせ」

現在私達は、末日の世に生を受け真の福音を知って幸せな毎日を過ごさせて頂けるのは大きな祝福であります。と同時に、非常に大切に重大な時に住んで居る事を知らなければなりません。

肉体を持って生まれる事を得たしめた私達の両親又、その先祖を

探し求めて、此の世の中にかけて住んだ事のあるすべての神の子供達に、イエス・キリストの贖いを

もたらせるため働くために、末日の世に生を受け、生活する事を許されていると云う事です。末日聖徒に与えられた責任はたくさんあります。教会や神権者に与えられた最も大きな責任は、恐らく全世界にこの福音を伝える事でしよう。

私達個人個人に与えられた最も大きな責任は、真理に耳を傾ける

事なくその機会なくして此の世を去り、暗やみの中をさまよっている自分達の先祖を探し求める事です。神は特にイスラエルの子孫である私達末日聖徒に此の事をなす様に望んでおられます。

神は生ける人のみのためこの偉大な救いの計画をされたのではなく、生ける人、死せる人すべての人々の上に不死不滅と、永遠の命を与える事が主の御心であります。

自分の一、聖餐式に出席する事、知恵の言葉、祈る事を勧告されているのと同様に、死せる人々に對する義務を行う様に勧告されているわけです。

この事は生ける私達に課せられた最も大きな責任であり義務です。ヒバ・J・グランド大管長は次の様に云っておられます。

義務とは、証詞でもなく、驚嘆すべき示現でもなく、キリストの教えが真の福音であり救いの計画であるという事を知っている事でもない。又ジョセフ・スミスが誠に予言者であると唯知っているだけではない。それは末日聖徒の生活を實踐しつつ神の誠命を守る事であると。

天父なる神の御心はただ人々を教会に導き席を与えて神の国の来るのを待たせると云うのではなく、主は次の様に誠めておられます。怠惰なる人とは、汗を流して働かない人の事ではなく与えられている責任と義務を遂行しない人の事である。

私達にとって先祖はそんなに遠い存在の人達ではありません。こうして私達が受けついでいるすべてのの良き嗣業は先祖によってもたらされたものであります。

私達が唯系図を調べて神殿に送るこれだけの事によって、私達の先祖はそれだけ罪と死の束縛から解放されるのです。私達は、こ

の重要な責任を果たしたか無視したかについて、その証明を神の前にしなければなりません。ジョセフ・スミスは親族のために行う責任を怠っている人は自分自身の救いをも失う事を自覚しつつ、その責任を怠っている人であると云われています。今からすぐに私達は、誰れの先祖でもない自分達の先祖を探し求めてその子供を両親に結びかためて、そのくさりを出来るだけ速く迄のばす様に努力する必要があります。すべての教義、誠命の終局は、永遠の生命を得ると云う事です。

私達は先祖と共になくして決して完き救いを得る事は出来ないと思ふべきです。先祖を探すと云う事は神の約束をくわえたる誠命であります。すなわち約束とは、神の与えたもうた土地に私達の日が長くつづくと云う事、永遠に生命を得ると云う事です。私はまだ十五枚を提出したに過ぎませんが、いよいよ系図調べと云うより戸籍調べと云う所でまだまだこれからが大変です。でもその中で数十人の救いのため働く事が出来て、その人達と共に大きな喜びを持っています。此の仕事はほんとうに大変

です。お金もいりますし時間も必要です。又忍耐のいる仕事です。だんだん古くなって来ますと、戸籍を入れた所で、死んだ人々の死亡年月日をたった一つ見つけるのに半日を費やす事もありました。次々にその家の宗派と思われるお寺をまわって、過去帳を開いて、その中に私の探す人の名前を見つけた時、その喜びは此に詠す事は出来ない大きなものです。実際に此の仕事を行う事、神の大きな助けのある事を証明出来ます。又自分自身この仕事に対して、人々の前に証明出来ます事、対し心の中に大きな喜びを感じています。

私は此の仕事に手をつけて、又多くの発見をしました。それは、教会の教え、死者のバプテスマなどについて、全然知らない多くの人々の間にも、系図について深い関心を持っている人があると云う事です。

此の仕事の大切である事を良く知っている私達がなまけている事は、ほんとうに悲しむべき事ではないでしょうか。

受け入れている知識を実践する所に、いわゆるモルモンと云われる意味があるのだと思っています。

私は声を大にしてこの事を皆さんに申し上げたいと思います。

私達の日がこの地上に長く続く様に真の意味でモルモンと云われる様に此の仕事を行なしましょう。

西宮支部活動報告

光陰矢の如しとか、早いもので西宮支部は満一才の誕生日を十二月に迎え、系図会も七ヶ月になりました。その間系図の仕事に関して全く無関心で無習に等しかった我々も、今は当時の事を懐しく恥しく思うと同時に本当に系図の仕事がどんなに大切なものであり喜びのある仕事であるかを証してきます。私達は系図の仕事を始めにあたり、教務的な展開より実施指導を主にして会を進めてゆき、十二月の委員会では「個人の調査報告と座談会」を開いて各々の仕事の進捗を喜び合い苦心談、経験談を語り合いました。その時の模様をお伝えしましょう。

先づ我々支部の会員に対して北部極東伝道部系図委員会会長渡部正雄兄弟より私宛にいたいたメッセージを読み上げ、その熱烈な信仰と高遠なる理想をもって強く

すべての事をイエス・キリストの御名により申し上げます。

アーメン。

(東京北支部)

私達支部の二人一人に呼びかけて下さった渡部兄弟に深く感謝しております。

個人的な調査も半年という短期間にも拘わらず中川宗幸兄弟は親戚に協力を依頼して母系の家系図を蔵より清和天皇までのものを見出し、田添幸子姉妹は江戸初期までの家系図を見出されました。他には安芸美江子姉妹は豊富な経験を通して万全を尽して着実に実績をあげておられます。安芸安兄弟も四国の安芸秀之守の城主の子孫であることなど先祖について親老人より相当古い確かな資料を多数の人が知りましたので、私達は早くこうだと断定できる資料の収集にまいしんしょうと決めました。

我々は系図の仕事を通して両親が協力的であり福音を伝える絶好の機会となったり多くの人々に福音を伝え、疎遠であった人に再会

することでもできました。田口広道兄弟と豊島姉妹が親戚同志になるということが系図を調べていくうちに判明し当人同志は勿論双方の御両親も驚かれたという秀逸なエピソードも生まれました。

しかし具体的な確かな資料をうる為に今年はいよいよ一層努力し前進しよう系図委員会では昨年の資料をもとにして本年一年間の計画を作りました。

月に一度の会ではどうしても満足でないので四組のホームテーパーを組織し、家族の方々にも積極的に話しかけ系図の探求に努力しようとしています。ホームテーパーチャー・トレーニング。ホームテーパーチャー報告会を毎月開い

ていきます。まだまだ組織も近き将来には補足を必要とし、全員が他の責任と兼任という現状なので一人一人の努力が大変だと知っていますがが会員一人一人の強い謙遜な忠実な信仰と相互の愛と信頼のもとに主の恵み豊かな導きをいただいてこの会を進めていけることを感謝しています。決して満足のできる状態でなくむしろ不満足が多い現状といえるかもしれませんが一人一人の熱心な努力をいたゞいている私は感謝と満足をもって一生懸命に努力のできることを感謝しております。先輩諸兄弟の御指導御鞭撻の程をお願いいたします。

(植 村 記)



北部極東傳道部系図委員会報告

傳道部系図支部数 30
傳道部内支部数

合同系図委員会開催回数 10
傳道部系図委員会委員数 1

四半期最終月 1958年12月
傳道部系図委員会開催回数 0

支部名	東神史	東京北	東京南	横浜	仙台	旭川	札幌	西宮	室蘭	広島
支部会員数	172	141	81	143	90	52	139	83	49	82
支部系図委員会委員数	7	10	4	4	7	3	4	4	15	5
支部系図委員会開催回数	7	4	2	3	3	3	13	3		6
ホーム・ナレッジ										
最初の訪問	1	1		3	1	2				
再訪問		1								
ワーク・ナイト	7	2		1	3					
作成された系図	12	8		2	1	4				
作成された家族の記録	2	8		6	2					
作成された旧人の記録										

② 今後各支部系図委員会の傳道部系図委員会宛の四半期報告は四半期最終月の翌月の十日迄に傳道部系図委員会に到着するように授けられたい。

系図協会へ記録の提出

一月末に前掲の伝道部四半期報告書と共に東中央地方部東京、横浜各支部より提出された系図（一九）家族の記録（六七）計八十六枚を系図協会に提出しました。これにより百四十三名の我々の死せる先祖が救われんとして居ります。或兄弟は既に五十名の又或姉妹は十四名の死せる先祖の救い手とならんとして居ります。このように素晴らしい大量の記録が提出されたのは本伝道部始まって以来のことであり伝道部長さんも大変喜んで下さり又、系図協会長のジョセフ・フィールデング・スミス長老もきつと喜んで下さると思います。

けれども伝道部長さんは曾て私に「渡部兄弟日本に神殿が建つ迄には何万、何十万の家族の記録が用意されねばなりませんよ」と言われました。現在会員二千名として一人が五十枚作ってやと十万枚です。まだまだ道遠しと言わねばなりません。

愛する兄弟姉妹の皆さん、何卒一枚でも二枚でも愛する私たちの先祖の救いの為、今から家族の記録を作成するようそして栄えあるシオンの救い手となるよう今直ぐ系図の探求を始められるよう心からお願ひし、お祈り致します。

伝道部系図委員会会長

渡部 正雄

「神殿献堂式の祈禱」

ノルト・レーク神殿 (一)

「ウィルフォード・ウツドラフ大管長」

天に在ます我等の父よ、天と地とその内に在るすべてのものを造り給ひし汝、慈悲と愛と真理に於て完全なる最も栄光ある汝、我々汝の子供たちは今日汝の御前に来たり、我々が最も聖なる汝の名に建てたる此の家の内でへりぐだりて我々の罪が永えんに寛えらるることなく我々の祈りが汝に達し自由な汝の王位に受入れられるよう、我々が汝の聖なる住居に聞かれるよう汝の愛する独り子の贖いの血を乞ひ願ひ奉る。而して汝が恵み深く我々の歎願を聞き、喜びて汝の無限なる智慧と愛によって応ぜられ、我々が純潔な心を以て求め、又汝の意思を行い、汝の名を崇めその栄光をもたんとする完全な目的にそうしている限り、我々の上に我々が求め居る百倍もの祝福を垂れ給わんことを。

我等、聖賢者、啓示を受け告ぐる者たらしめ、天より降り来たる天便の援けと導きと恵みを通して、汝は彼をして、既に多くの国語に訳され出版されたるヨセフの本なるモルモン経をエフライムの手にもたらしことを得せしめたるを汝に感謝する。我々は又天に在ます我等の父なる汝に汝が汝の僕を盡し、彼にこの善き地にこの地上に汝の教会を組織する能力を完全な形に於て、すなわち便徒、予言者、監督及び教師、これ等に属するすべての賜及び恩恵を含め又救主の時代にその神権を持ち居たる聖なる天便による儀式の執行により汝が彼に与えしアロン神権及びメルケセデク神権をも含めてその能力と栄光を与えしことを感謝する。

我等の神よ。我等は汝が汝の僕ヨセフをして生ける者と死せる者との為の儀式の執行されし二つの神殿を建ててことを得せしめたるを又彼が地上及海の島々の各國民に福音を送り、神の言葉とイエスキリストの証詞の為に殉教する迄特に多く働き得るよう生かしめたるを感謝する。

天に在ます我等の父よ。我等は又汝が汝の僕、ブリガム・ヤングを起し給ひしを、汝に感謝する。彼は此の地上に於て既に長い間、神権の鍵を持ち、汝の民を此の山間の盆地に導き、此の大きいなる神殿の礎石を置き、且それを汝に獻堂し、又数千の生ける者が祝福され死せる者が贖われし、汝の聖なる名に獻堂されしロッキーマウンテンの他の三つの神殿の建築を指示したれり。

天に在ます我等の父よ。我等は汝の僕、ブリガムの後を継いでその追放の内に生命を失う日まで汝に仕えし汝の僕、ジョン・テイラーの為に汝に感謝する。

汝は汝の僕、ウィルフォード・ウツドラフ、ジョージ・Q・キャノン、及びジョセフ・F・スミスを召して今日の大管長会及び神権の鍵を握らしめしが、これ等汝の羊の牧者の為に我々は汝に感謝し汝を讃美し奉る。汝の僕、ウィルフォードは、その誕生の時より今日まで、彼の生命を保存せし事に

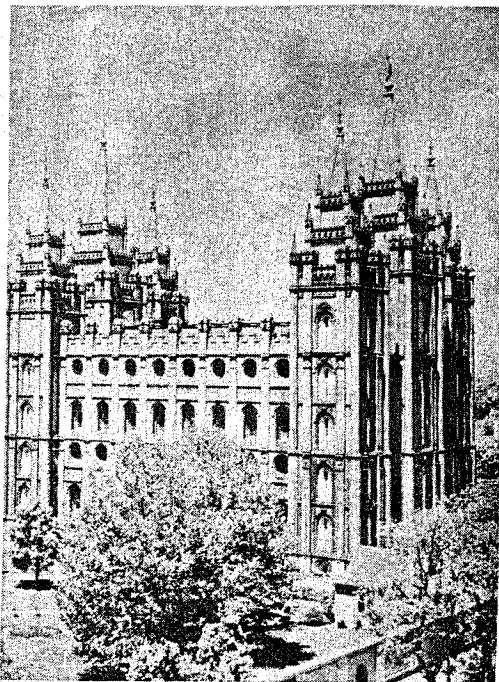
おお父よ、汝の手を認識すべく結ばれておりたり。汝が此の地上に於て彼に許し与えし生命、彼が経し八十六年は汝の能力を除いて如何なるものも之を保持すること能わざりしならん。

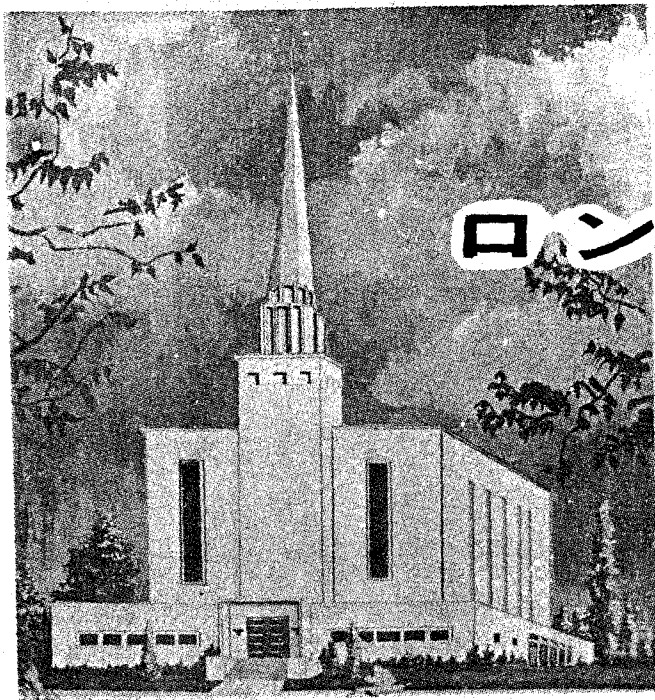
我等の神よ。我等は又汝が十二便徒を起し給ひ、我等の間に完き団結が存在することをも又汝に感謝する。

おお主よ。今日、存在する汝の教会の完全な組織の故に我々は汝に感謝する。

おお主よ。我々は熱烈な表現し能わざる感じを以て此の聖なる建物の完成を迎える。過去の時代に於て汝は汝の聖なる御霊を以て汝の僕、予言者たちを靈感し、

の日にエホバの家の山はもろもろの山のいたゞきに堅く立ちもろもろのみねよりまたかく拳り」と語らしめたり。我々は我々がこの汝の昔の聖賢者たちのこれ等の示現の成就に貢献する栄ある機会を持ちしことを、そして汝がその身を低くして我等が此の大きいなる業に参加することを許し給ひしことを汝に感謝する。而して汝の僕たちのこれ等の言葉が斯く奇しくも実現したるにより、我々は増大せる信仰と新たな希望を以て汝のイスラエルを集合し、末日に此の地上に汝の王国を建ててに就ての彼等の言葉が速に迅速に成就されるよう、おお主よ。我等は汝に祈り奉る。 — 未完 —





ロンドン神殿

献堂式

III

ドイル・L・グリーン

第四番目の語り手は曾て英国に伝道し、ミレニアル、スターの准主筆であったそして現在献堂式準備委員会の会員であるリチャード・L・エヴァンズ長老であった。

「今朝、私の心に曾て此の地に、この伝道部にこの教会に、一時的にも永遠にも最も意義あるすべてのものの上にその足跡を残した大いなる人々の姓名や場所や声が次から次へと浮んで行きます」

彼はヒーバー・O・キムボール及び彼の同僚及びこの島に於ける伝道の始まり、及び英国の伝道部を管理したか又は密接に関係したすべての教会の長を指して言ったのである。

彼は大英国で生れた十二人の教会幹部を想起し、この大いなる国の教会に對する貢献の明らかなることを指摘した。

この神殿は我々の知ら

ざる間に世の人々に何等かの影響を与えているのである。その作用は優雅で人々の生き方を靈的な方向に向けるのに役立っている。

続いてアーデイス・トワイチエル姉妹によって「此の殿を祝福し給え」の独唱があり、ジョセフ・フィルディング・スミス十二使徒会長が立上って語った。

「今日はブリテン島に居を構えるシオンの大いなる日である。百年間も我々は他の如何なる処でも受けることの出来ない祝福を受けられる主の家、此のような建物の為に祈って来た。貴方たちの多くの者が早期に於て福音は受け入れたが、日の榮えに進む祝福を受ける機会を持たなかった父母たちの子孫である。これはこの世で又永遠に結婚する祝福を指すもので、或誓約を受け、

神の王国の榮えに進むことに伴う或義務を負うことである。今やその時が来たのである。そして貴方自身の為に、日の榮えに進む大いなる祝福を受ける特権が貴方に与えられるであらう。只主の神殿の内なるものを受け、その完全なるものを受けることが出来るのである。

貴方の信仰と福音に對する理解を以てへり下って、ここに来て、忠実に貴方に許された処の日の榮えに進む儀式を受けるよう貴方自身を準備しなさい。今度はマツケイ大管長が説教壇に進み出た。彼は最初、胸が一ぱいでよく語れないようであった。我々にはかたずをのんで聞いた。

「今日は単に大英国に於ける教会の会員の為ばかりでなく、過去に於て此の地に残した経験は今、追憶し、彼等

の先祖の聖なる記憶をも相起している数千、数万人の他の人々の為にも大いなる日である。世界のあらゆる地方に於ける教会の会員は、今日此の献堂式に集会している皆さんの上に、その思いを集中し、その願いの祈りを捧げているのである」。

彼は死すべき世界と不死不滅の世界との間の幕は非常に薄く幕の向う側に居る人たちは、此の大いなる日を喜んでいることを指摘した。

「今日は新世紀の始まりである。そして我々は如何なる地に於ても忠実な人々がモルモン教会の高貴な立派な目的に就て、よりよく理解する新世紀であるように望み又祈っている」

彼は結論して言った。「我々は彼等にとって価値ある者となり我々の性格を彼等と同様に堅実に忠実にのばすよう

決心しよう。彼等は我々に就て聞くことが出来る、彼等は我々の心を讀み我々が今日我々の行為によって人類に善意をもたらず為全力を尽くして努力していることを示す為模範的な生活をすることを決心していることを知る。

より多くの慈悲と愛の精神をそして対立と闘争を少くする。これが教会の使命である。神は神の目的を完成する為に我々が全力を挙げて我々の本分をつくすように決心すること

を授け給う」
次いで献堂式の祈りが捧げられ、マツケイ大管長の発声によってホザナを叫んだ。
閉会の歌は聖歌隊によって「ホザナ頌歌」を又「主の御霊は火と燃えて」を聖歌隊と会衆によって歌われた。

我々はハンケチを取り出して涙を拭かねばならぬ

程、我々の上に注がれた主の御霊に感じた。我々は誰が最後の句を歌っているのかいぶかった。我々の周囲の者又我々の眼の届く限りに居る人たちは皆流れ出る涙を抑えることが困難な有様であった。或者は抑えようとせず恥ずかしさも忘れて泣いていた。

閉会の祈りはセルヴオイ・ボーヤー神殿管理会長によって捧げられた。

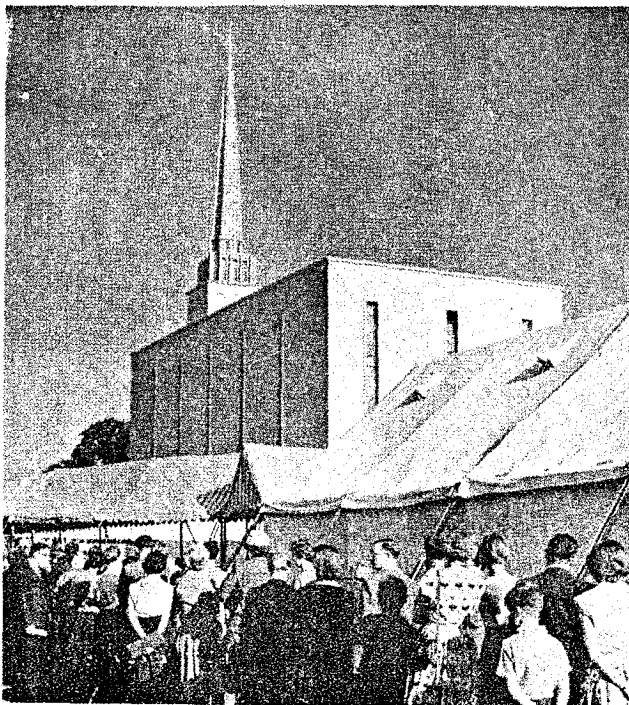
式は終わった。けれども我々は容易に去り難かった。それは生涯で一度の印象的な美しい霊感的な経験であった。我々は続いて行われる式（集会）にも留って他の語り手の話を聞き又榮えある祈りを再び聞きたいと望んでいる自分自身を見出したのであった。

我々は神殿が伝道部の人たちに對し如何な

る意味を有するものであるか想像して見た。我々は神殿のエンダウメントの式は水曜日朝から始まったと憶えているが、その翌日から多くのこれ等忠実な聖徒たちの生涯の夢が実現するのである。

我々の思いはベルン、ニュージーランド、ハワイ、ロスアンゼルス、カードストン、アイダホ、フォール、メサ、セント

ジョージ、マンタイ、ローガン、ソルト・レークと神殿から神殿へと飛んで行った。未だ曾てなく我々は神殿の仕事の重要性に印象づけられ、我々の心の中には、我々がイエス・キリスト教会の会員たることを我々の天の父に感謝する量り知れない感謝の念が充ち溢れているのである。



この言葉で始まる聖句はジョセフ・スミスを感動させ、神と御子イエス・キリストとに相まみえる切掛を与えた極めて大切な聖句であるが、私たちにとっても常に自己の生活の中に取り入れられ、応用されるべき重要な聖句である。

「汝らの中、若し智恵の欠くる者あらば……神に求むべし……」に求めよ。

これは誠に真理である。この世には人の智恵のみを追い求めて心の満足を得んとしている人が極めて多い。また神の教えを受け入れずしてこの世の智恵だけで満足している人も数多い。このような人たちは「神から与えられるという智恵については何ら知りたくない。しかし、A博士の言葉なら信ずる。彼の業績も認め得る。けれども神の御言葉には何ら確信を持ち得ない」という。これが彼らの神に対する信仰を亡ぼす大きな原因となっている。

しかし、私たちは年月の経過に従って、人間の作り出した多くの学説が変更されたり、取り消されたりしているのを知っている。かつて学者たちの間で定まれる、確

定的な見解として認められた結論が今や他の新しい「知識」によってくつがえされている。このように人間の作り出した理論のいくつかが神の真理の前にもろくもくずれ去っているのをだれでも認めているであろう。

「若し智恵に欠くるなら……神に求めよ」。

神は決して私たちを誤った道に導くような事はなさらない。神は日常の生活に於て私たちを導き、従事する

汝らの中若し 智恵の欠くる者あらば……

……

さることを
必ず信ずるは

を与えたもう。神は全智全能の御方に在し、私たちの心のすべての必要を知りたまい、常に「すべて重荷を負う者、我に來れ」。「求めよ、さらば与えられん」。「尋ねよ、さらば見出さん」と仰せになつてゐる。「しかし信仰をもて求めよ」……ここに成功への鍵がある。勿論、求めなければ、何ら得る事を期待する事は出来ない。誠に「努力なくして報いなし」である。しかし、多くの願いが実を

結ばなかったり、多くの祈りが何ら報いられない時がしばしばある。「信仰もて求めよ」……主はこのように仰せになった。主なる神は私たちに祝福を与えたもう事をおよろこびになるが、信仰を強く持っている者には数知れない恵みと祝福とを与えて下さる。故に、信仰がなかったら、主なる神によろこばれる事は出来ない。何故なら「神に來る者は、神のいます事と、御自身を求める者に報いて下さることを」とを

「信仰もて求めよ」。これは神の律法である。これと全く同じ意味をもつ神の御言葉に次の如きものがある。

「そもそも創世の以前より天に於て定められたる一つの交らざる律法ありて、あらゆる祝福はこれに基くなり。すなわち、われら何にても神より祝福を受くる時は、この祝福の基く律法に従うによりて然るなり」(教義と聖約三〇章廿二)

「たゞし疑ふことなく、信仰をもて求むべし。疑う者は風に動かされてひるがえる海の波のごときなり」(ヤコブ書一章六節)

若し自分の祈りに答えが必要であるなら、まず祈りの基礎となる律法に従わなければならない。その律法の一つこそ信仰である。私は考えている。このような律法は他の御言葉によっても云い表わされている。「而して、汝らが必ず受くと信じて、わが名によりて御父に乞い求むるものは、その正当なるものなる限り、すべて汝らに与えらる」(ニファイ第二書十八章二節)

ニユース欄

三年の伝道終えて……
……ウイテカー長老帰国

第二副伝道部長であり、伝道部補助組織監督でもあるウイリアム・ウイテカー長老は三年間の伝道期間を終えられ、三月十四日、午後六時C.P.A.L.会社のジェットプロブ機で羽田を発つ予定である。



ウイテカー長老は一九五六年の二月来日、札幌と岡町に伝道、岡町支部長を最後に一九五八年一月より伝道部入りし、補助組織の監督となった。その後、第二副伝道部長に任命され、アンドラス伝道

部長の片腕として忠実にその任にあつた。伝道本部の繁雑な事務もテキパキと片づけ、聖徒の道の向上にもなみなみならぬ努力をした。彼は帰国後、BYUで中途であつた卒業を続けるとの事である。

軍隊で四年、宣教師として三年日本に生活したウイテカー長老にとって、最初のうちアメリカの生活にかえることは不自由かも知れない。

なほ補助組織監督の後任は西中央地方部長のノーマン長老が任命された。ノーマン長老は伝道部の補助組織の指導に当る他多シメナ・メッセジャーの編集長及び聖徒の道の編集委員としても働かれる。

新しい陣容で

一月一日午後七時からミッションホームで新年パーティとしてゲームの夕べを開きました。そして四日には今年の新しい役員の任命式がありました。

日曜学校

会長、石谷忠二兄弟。第一副会長、相良隆一兄弟。第二副会長、岡本貴明兄弟。書記、安藤あつ子姉妹。音楽指揮、小坂はな姉妹。オルガニスト、草壁園子姉妹。教師小坂はな姉妹。

子供日曜学校

会長、中沢やえ姉妹。第一副会長、岩田昭子姉妹。第二副会長、吉田繁子姉妹。教師、中山千鶴子姉妹。書記、竹川幸子姉妹。

M.I.A.

会長、庄司壽朗兄弟。第一副会長、中山賢助兄弟。第二副会長、笹原時子姉妹。書記、泉日姉妹。音楽指揮、石田姉妹。

清野清光兄弟のバプテスマが凍りつくほど冷たい馬見ヶ崎の川で十八日無事に人々の祝福の中に行われました。二十七日にはヘル長老が小樽に転任になりました。

新しい年をむかえ新しい心がまえで努力して行きたいと思ひます

でささやかな送別会を開きました。

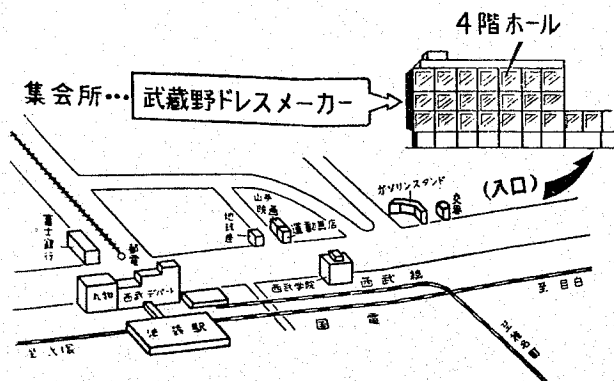
北支部集会所の移転

東京北支部は二月一日より日曜学校、聖餐式、M.I.A.の集会場は池袋駅より五分という地の理を得た、ムサシノ・ドレ

どき短期間の前売りにもかかわらず満員の盛況で四萬五千円の収益があつたと報告された。

が私達は主の御助けが無くては何もする事は出来ません。常に祈りつつ今年一年をはげんで行きたいと願つて居ります。

(山形 草壁園子)



(池袋東口……西武デパート前大通りを目白寄り5分)

デクソン下院議員来訪



上の写真は左から渡部兄弟、デクソン兄弟と他の二名はアメリカ大使館員のルイス兄弟及びグリフィン兄弟である。

アメリカの下院議員H・アルダス・デクソン兄弟は公用を帯びてインドのニューデリーに開かれる会議に出席する途中、二月二日午後伝道本部を訪問された。

持つ多忙な身を持って居られるが教会においてはソルト・レーク市に本部のある日曜学校協会管理局員の一人として全日曜学校管理に關する大管長会の諮問に應ずる重要な使命を果して居られるとのことである。

タレントの夕べ

他の支部では延期された所もあったようですが、広島支部では沢山の兄弟姉妹、求道者を迎えて予定通り一月一日にMIAのタレントの夕べを行いました。

展不出品物には、スエーデンしゅうのテーブルセンターレース編の花びん敷テーブルセンターそ

ジヨセフ・ア・クイン兄弟

独唱会開く

柳井支部では来日中のジヨセフ・ア・クイン兄弟の独唱会を柳高講堂で、十二月六日午後六時より開催した。力強い数々の歌声は、聴衆を本当に魅了し後々までも人々の心から消え去らず感銘深い会でした。

開催にあたって柳井のような小さな町ではたして人が集るだろうかとか心配する向もあったが、支部長の「大丈夫やって見ましよう」という強い言葉に励まされ、限られた短い日数ではありましたが、会員達は東奔西走し、そのかいあってすばらしい会を持つ事が出来

れに習字、似顔絵等、その他いろいろの手芸品がありました。又宣教師の方々によるウェスタンソングの美しいコーラスをはじめとして求道者の飛び入りもあって独唱自作の詩の朗読、オルガン独奏、落語等、各々持っているタレントを披露して下さり、なかなかふんいきの中に元旦の夕べの一時を過しました。

あるかを知る事が出来ました。ア・クイン兄弟はハワイのライエの出身でBYUに学んだ事があり、今は帰国しているが、海軍の水兵として日本に滞在中、海軍のコンテストに出演、一位となり、ニューヨークまで行って全米のコンテストに参加二位になった程の実力者である。

演奏会は何か曇的な気分でしたが皆で合唱した。荒城の月のいつも聞きなれたあのメロディが、心に深くしみじみと感じられたのはあまり例のない事ではないでしょうか。

た。この独唱会により協力と奉仕の精神とがいかに価値あるもので

なおこの会の純利益は二萬円餘でした。



伝道本部だより (二月卅一日現在)

宣教師到着

シエンキンス長老 シアトル市出身
シモンズ長老 アイダホ州ボカテロ
クオオ長老 ハワイ・ホノルル
トン 長老 ハワイ・カネオヘ
スア 長老 ハワイ・ホノルル

宣教師異動

クルツク長老 広島
アパナ長老 広島
フライ長老 京城東
ステヴンス長老 京城東
ジエンキンス長老 京城南
ナルアイ長老 京城南
ヘーグ長老 京城南
トング長老 岡町
クオオ長老 三宮
スア長老 三宮
チエース長老 三宮
ナント長老 仙台
パーキンス長老 仙台
デビス長老 名古屋
リユーベン長老 仙台
アステル長老 東京中

ダルトン 長老 東京中
ブラドショウ長老 韓国
シエンキンス長老 韓国
トンブソン 長老 本部

支部長更任

ジミー・フオックス長老 名古屋
フランクリン・ブラツク長老 甲府
ダビド・バートン 長老 山形
ダーレル・ヘール 長老 小樽

誕生と祝福

渡辺潔 (一九五八年十二月十六日誕生
父渡辺寛、母(旧姓)白井八重子) は本年
一月四日父渡辺兄弟により祝福を受けた。

(東京南支部)

神権授与

執事 深江ひろし 阿倍野
教師 太田輝男 旭川
教師 矢吹富男 旭川
祭司 松浦秀明 福岡
執事 呉屋仁栄 普天間

バプテスマ

執事	喜瀬	普清	普天間	執事	与古田	光榮	普天間	執事	樋口	立美	広島	執事	松本	寛	広島	教師	西原	良男	広島	教師	沖村	一夫	広島	執事	河田	ますお	金沢	教師	沼野	次郎	西宮	執事	高城	卓哉	西宮	長老	武川	忠義	東京中	長老	山田	義郎	東京中	長老	昼間	修一郎	東京北	長老	福田	正勝	東京北	祭司	丹羽	三吾	東京北	教師	佐藤	寛二	東京北	長老	山田	五郎	東京北	祭司	山田	政伯	東京北	執事	相良	健一	山形	執事	桑本	勝也	横浜	執事	田端	けいた	横浜
----	----	----	-----	----	-----	----	-----	----	----	----	----	----	----	---	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	-----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	-----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	----	-----	----

比嘉 盛とく 普天間
星野 清光 普天間
仲間 トヨ子 普天間
須田 耕三 広島
屋富 祖昭 那覇
井伊 一年 岡町
稲田 一史 岡町
宮田 信義 岡町
板本 延子 小樽
大内 均 札幌
斉藤 守男 札幌
佐々木 英一 札幌
笹尾 あつ子 札幌
四かま スエ 札幌
小柳 清栄 札幌
高橋 妙子 東京中
稲垣 英子 東京北
清野 清光 山形
外に韓国にて十一名バプテスマを
うけました。

地方部大会

京中央 四月 四日 五日
西中央 四月 十一日 十二日
北海道 四月 十八日 十九日
韓国 五月 二日 三日



Poetry

西支部俳句

一月句

(季題) 寒菊、初荷、密柑

庭すみににじり寒菊の咲き残る 小室姉妹

水盤の寒菊の葉がのびるに

山芋を積んで初荷の船が来る

目を細め老母が食べし酸い密柑

月薄く西山にあり初日の出

鈴木兄弟

天翔けてとき子等誘え赤いんぼ

密柑むく子等の手先の娘しもう 浅田兄弟

ホクトににに一つ密柑あり 勝又兄弟
憎しもうに密柑むくなりあかざれ手

安心日

仙呂 桂島良子

水仙の葉かけに小さく芽ぐいあり
安息日新ににはぐむ心の平和



Poetry

神を知りて

六島 内藤 良子

曾て吾れに
やみの夜空に
たじそり一つの
消すすべもなき
苦しき希みありき
一つ瞬く星の光と
星にも似て
希みにてありき

さばあれ
歡喜して煌めく
涯しなきいのちに
父にこえます
今わが胸には
千萬の星の群あり
湧きいづるこの喜びを
神に捧げん

曾て吾れに
道にふさるる
たじその小さき
詠る人なき
悲しき願ひありき
名もなく小さき花の光と
花にも似て
願ひにてありき

さばあれ
かぐわしき匂ひやちなる花の園あり
光ち足らふいのちにかがやくこの喜びと
み恵深き
神に捧げん

握手しよう

室蘭 高橋正徳

私の愛する兄弟姉妹よ
握手しよう
永遠の握手しよう

私の愛する兄弟姉妹よ
私達は耐えて行こう
いかなる迫害も耐えて行こう

私達が何時か現世を去った時
温かいおの愛の手が
私達のこゝろ握手をかばってくれる

私達の手と手はなれようとする時
声高らかに讃美歌をうたひ
何時も神に祈りましょう

私の愛する兄弟姉妹よ
そして固く
握手しよう

お知らせ

伝道本部に直接聖徒の道を注文したり、他の場合でも送金する場合、振替口座（東京七六二二六番）を利用して下さい。振替以外の場合はかならず書留便にしていだきたい。最近一人の会員が聖徒の道の一年間の予約を直接伝道部に申し込んだが、伝道本部ではそれをまだ入手していない。振替か書留であればけっして手違いがないし、例えあったとしても、送金者の方に領収書があるので、郵便局でもそれについて調査が出来ます。

封筒に直接現金を入れ、十円切手をはって送金する事はやめていだきたい。本部ではそれについて責任をとりかねますから。尙今迄振替で送金した場合、直接本部より領収書を送附して居ります。

文通しよう

（その一）

私はノルウエーの一会員で、ノルウエーのドラムメンという小さな町に住んでいます。ここにもこの教会の一つの小さな支部があります。

私は他の国々の教会の会員たちとお手紙の交換をしたいと思います。私は二十四才から三十才位までの男の人か女の人であれば、うれしく思います。

Miss. Reidun Lysnes
Valbrottveien 2,
Drammen, Norway

（その二）

アレキサンダー長老は以前空軍で日本に居た事があります。一月三日のチャーチニュースで東京中央支部の記事を見、今井支部長に手紙を下さいました。当年二十五才、オレゴン州で伝道して居り、日本の会員と文通を希望しています。

Elder Dwayne M. Alexander
Northwestern States Mission
1975 South East 30th Ave.,
Portland 14, Oregon, U.S.A.

編集言

◎マッケイ大管長のメッセージは特に感銘深いものがある。ことに「思想は行動の種子」の項は私達に感じさせ、考えさせる偉大な示さを蔵している。

◎伝道部長メッセージは私達に幾つかの反省を促している。昨年一年中の北部極東伝道部の活動の跡を顧みると、私達はどれだけの努力をしたかがハッキリ判る。私はその数字にあらわれた結果にジクジたらざるを得ない。

◎今年は是非伝道部長の期待に添うように努力しましょう。「聖徒の道」をより多く発行するためにあらゆる協力を惜しまぬことをみなさんに切望します。

月刊 「聖徒の道」
第三卷 第三号

一九五九年三月一日発行

（定価）一ケ年三百円、一部 三十円

編集人 ポール・O・アンドラス

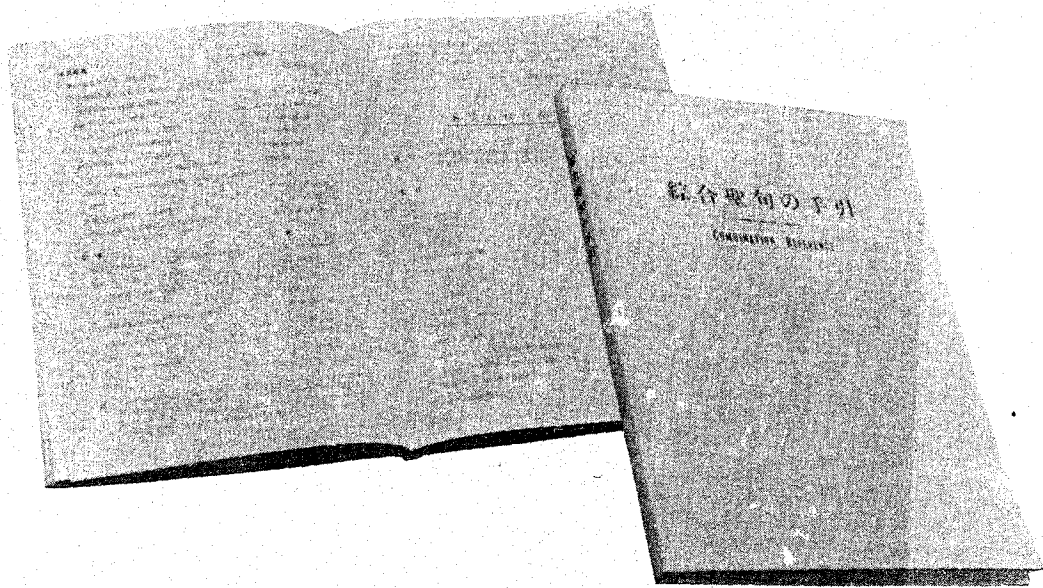
発行人

発行所

東京都港区麻布広尾町十四
末日聖徒イエス・キリスト教会
北部極東伝道部

綜合聖句の手引

C O M B I N A T I O N R E F E R E N C E



¥150

序

エルディン・リックス氏の手になる「綜合聖句の手引」(Combination Reference) は長年の間、英語によるすぐれた福音研究の助けとなって居ります。此の度、これが初めて日本語に翻訳されたのでありますが、本書は当教会の標準聖典を学ぶ上に非常に有益なものであると確信致します。凡て己が福音の知識を増さんと希う人々に本書を御薦めする所以であります。

1958年6月5日 於 東京

北部極東伝道部長 ポール・C・アンドラス

ユーヨーク・バルアイラのスミス農場の景なる
 曾て美しいフイッガー領域をなしていた処女林の一部、ここに1
 820年の春に顕著な赤現が生じ、それが遂に末日聖徒イエス・キリス
 ト教会組織に導いた。

